

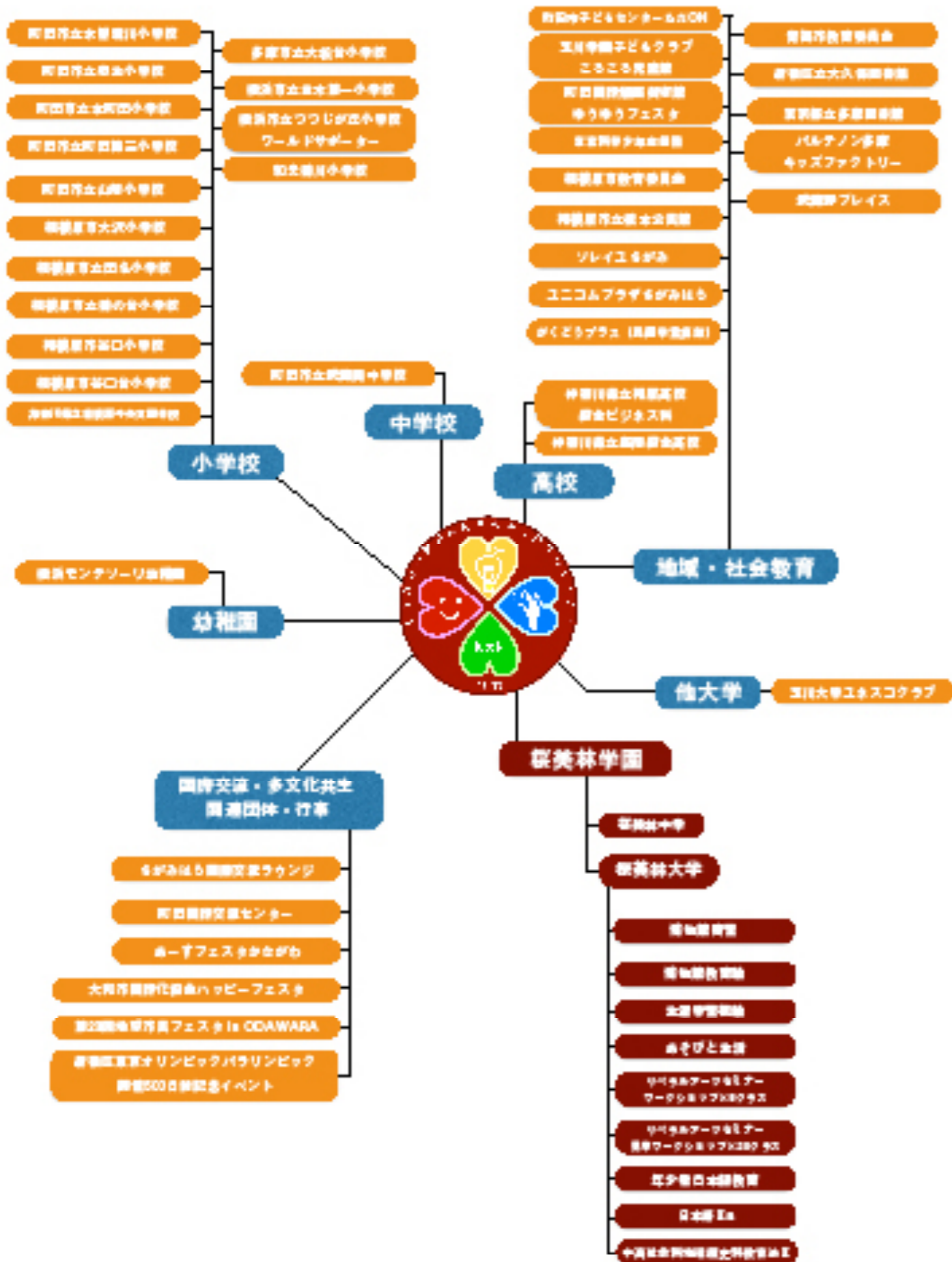


桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクトのあゆみ

Vol.7 2018年度

2018 年度

アウトリーチ教育プログラムのクライアント・連携協力先



桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクトのあゆみ
Vol.7 2018 年度

もくじ

2018 年度の活動報告	2
<p>広報活動による依頼の増加への対応と ワークショップのパッケージメニュー化を中心に</p>	
ワークショップによる学びを子どもの発達から考える	6
<p>発達に応じた異文化間能力の育成を目指して</p>	
2018 年度のメンバーと活動実績	11
2018 年度に実施したワークショップ・出張博物館概要	15
—私の経験と学び— 2018 年度に卒業・帰国した学生スタッフより	
バヤルト オド ツオルモン	38
金澤 穂香	40
戸谷 美森	42
呉 文睿	44
長田 萌香	46
小澤 知歩	48
後藤 優衣	50
朴 藝恩	52
ペロニオ ミランダ	54
張 心蓉	56
ジェラルド ケーモン	58

草の根プロジェクト 2018 年度活動報告

広報活動による依頼の増加への対応と ワークショップのパッケージメニュー化を中心に

岩本 貴永

アウトリーチ教育コーディネーター兼
エデュケーター

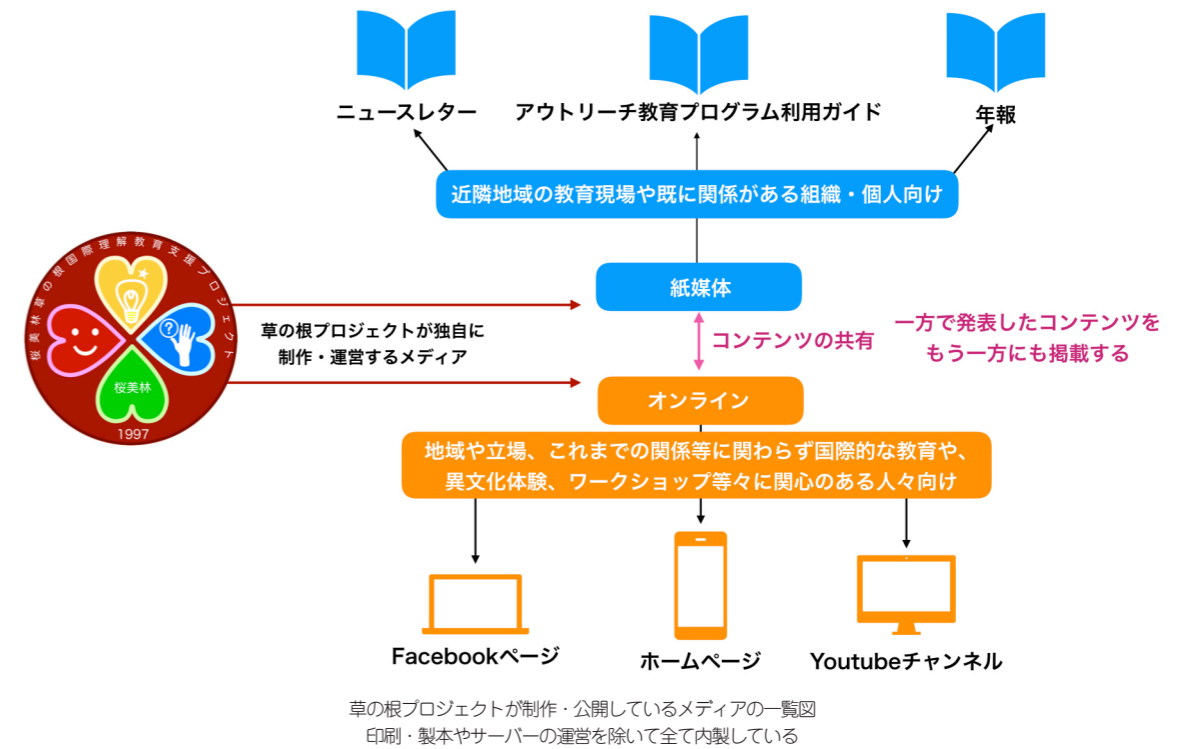
2018 年度は合計 73 件のアウトリーチ教育プログラムを実施した。今年度は実施当日の異常な猛暑や台風、雪のために中止となったワークショップや出張博物館が 3 件あったため、これらを含めると 76 件となる。2007 年度に最も多い 82 件を数えた後、2011 年度には 40 件ほどに落ち込んだが、徐々に実施件数は増加し 2015 年度以降は、4 年連続で 70 件を越えた。実際にはさらに多くの問い合わせが入っており、10 月中に国際学生訪問ワークショッププログラム（以下、国際学生訪問 WSP）、異文化協働体験ワークショッププログラム（異文化協働体験 WSP）の両プログラム、さらに 1 月に世界の実物体験ワークショッププログラム（以下、世界の実物体験 WSP）、世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム（以下、出張博物館 P）の両プログラムの受付は停止し、ホームページ上で告知を行った。問い合わせの増加や新たなクライアントの獲得は、本プロジェクトの活動がより広く受け入れられていることの現れであるといえよう。

こうした変化は 2017 年度の活動開始 20 周年を機に行った広報活動の改善が契機になっているものと考えられる。一方で、受け入れられる依頼にも限界があり、より効率的に対応する

必要性を認識した 1 年でもあった。本稿では、2018 年度の総括として、こうした広報活動と依頼の受け入れについて振り返り検討する。

広報活動の展開

活動開始から 20 周年を迎えた 2017 年度にアウトリーチ教育プログラムの再編を行い、それに合わせてパンフレットとホームページのリニューアルを行った。新しいホームページ (<http://www2.obirin.ac.jp/kusanone/>) は、2017 年度 6 月 29 日に公開した。2017 年 12 月からは Google アナリティクスによる本格的なホームページへのアクセスに関するデータ収集を始めた。これによると、2019 年 4 月 2 日までの間のページビュー数（ホームページ内のページが表示された回数）は 16195 回であった。神奈川県や東京都からのアクセスが最も多いが、大阪や京都、名古屋等の都市圏を中心とした日本各地のほか、さらには一部国外からのアクセスも見られた。ホームページでは、アウトリーチ教育プログラムの内容や実施に際して必要な注意事項のほか、これまでの活動実績、構成メンバー、連絡先等の基本的な情報を公開している。また、ワークショップや出張博物館



の実施報告、一般公開で実施する活動やアウトリーチ教育プログラムに関する情報の告知を中心にブログ形式で記事を随時追加しており、記事は 4 月 2 日時点で合計 85 件となった。本プロジェクトでは、Facebook ページ (<https://www.facebook.com/kusanoneproject/>) も開設しており、ホームページと緊密な連携をはかっている。ホームページで記事を公開した際には Facebook ページにおいてもシェアしている。

また、直接本プロジェクトの活動を紹介するものではないが、Youtube では本プロジェクトのチャンネル (<https://www.youtube.com/channel/UC6cwFFTFsIx2F3AmISesQvQ>) を開設している。ここでは、所有しているさまざまなコマの回し方を説明する 2~3 分の動画 6 本をワークショップの補助的な教材として公開している。これらの再生回数は約 11000 回(4 月 2 日時点)となっている。元々はワークショップで使用されるコマの回し方を映像で学習者に説明するために制作したものであった。これらをワークショップの中で学習者に見せるだけでなく、動画にアクセスする QR コードを学習者に配布するハンドアウトや出張博物館のワークシート等に掲載し、いつでも見ることができる

ようにした。これらの動画はホームページ上からも容易にアクセスできるよう専用のページを設けており、QR コードだけでなく多様な手段でアクセスされているようである。こうしたオンライン上の広報活動が充実したためか、ホームページを通じて本プロジェクトの存在が認知され、初めて依頼に至ったクライアントも見られた。

このように新たなクライアントが増えていくことは望ましいことであるが、一方で、異文化発見キット貸出プログラム（以下、貸出 P）を除いたワークショップや出張博物館の実施には限界がある。特に、毎年 10~11 月は依頼が集中しやすい本プロジェクトにとっての“繁忙期”にあたり、3~4 週連続して週末にワークショップや出張博物館を実施することは珍しくない。次には、貸出 P を除いた 4 つのプログラムの実施に関するキャパシティや今後の対応方法について述べていく。

プログラムごとの実情と対策

はじめに、留学生の参加が必須である国際学生訪問 WSP と異文化協働体験 WSP である。これら 2 つは、前提としてクライアントの希望

日程に対し、留学生が授業やアルバイトの予定が入っていないこと、そしてエドゥケーター(清水先生)のスケジュールにも合致しなければならない。また、準備のプロセスにおいても、留学生一人ひとりが目標と内容を理解し、それぞれがどんな役割を果たすのか共通理解を形成しなければならない。終了後も現場における実践をエドゥケーターとともに振り返り、今後の改善につなげるだけでなく、留学生自身の日本の学校教育現場における活動を通じた学びを支援している。こうしたサイクルを学期中に繰り返していくには、スケジュールの過密化が障害となる。どんなに多くても月間3~4件程度に絞らざるを得ない。単に多くの依頼をこなすのではなく、一つ一つの依頼に丁寧に対応し、留学生の学びにもつなげていくためには、今後もこれらのプログラムに関しては、ある程度絞り込んで対応していく必要があるだろう。

次に出張博物館Pである。実施には複数の学生スタッフが必要であり、特に2~3月の長期休暇中の依頼に対しては、人員確保の面で準備に不安が伴う。そのため、2018年度は、この間に3件の予定が入った1月の時点で、受付を締め切ることとした。2019年3月にこれまで中核を担ってきた学生たちが卒業を迎え、春休み中に進学や就職の準備により参加を見込むことができなかつたのが大きな要因である。そのため、既存のメンバーだけでなく、未経験の学生たちの参加を受け入れることで乗り切ることとした。彼らは、さまざまな授業を通じ本プロジェクトに触れることで、学生スタッフとしての活動に興味を持っているものの、現場に立ったことはなかった。しかし、長期休暇中にも研修を行うことで実践に貢献してくれた。

出張博物館はスケジュール上は対応可能であっても、このように学生の人数によって実施を検討せざるを得ない場合がある。この問題に対しては、展示する資料のバリエーションを運営に当たる人員の人数を調整することによって対応していく。2018年度の2~3月に実施した出張博物館では、計画の段階から人員がある程度確保できた場合から、最小限の人数で運営

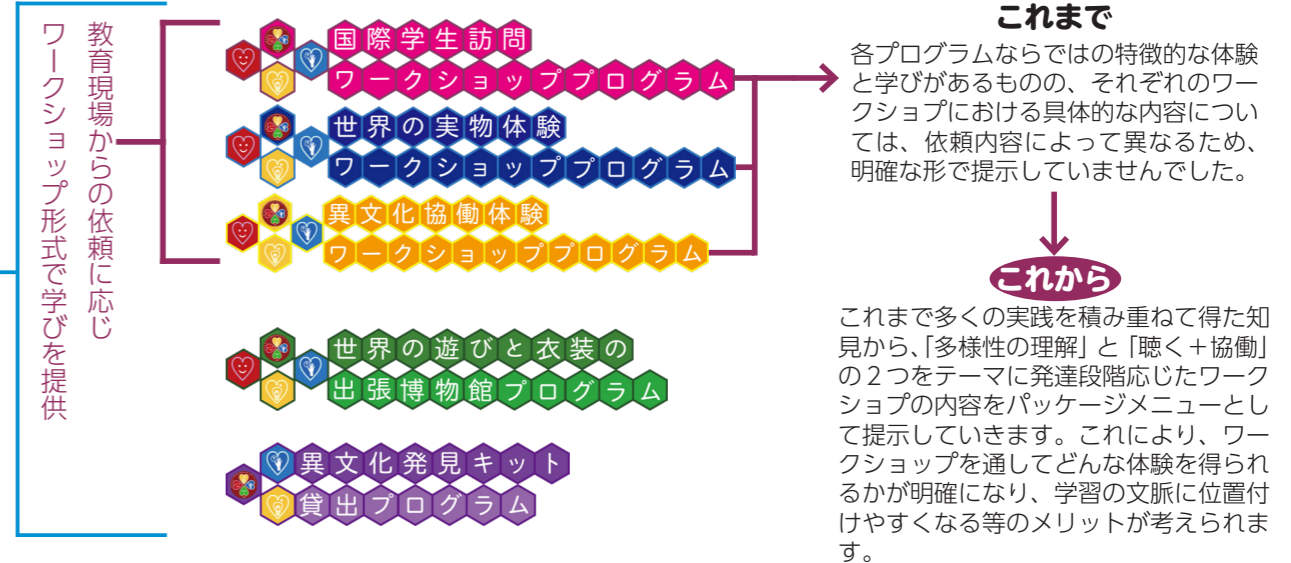
する場合まで検討していた。今後も運営に参加可能な人数の幅に応じた準備をしていく。

最後に、世界の実物体験 WSP である。これは、他のプログラムと比較して日程調整が容易である。留学生の参加を必要としないことから、内容によっては、エドゥケーターのスケジュールのみをクライアントと調整することで日程を決定することが可能である。また、実施に際して学生のサポートを必要とする内容であったとしても、その役割を周辺的なものに限定することで、事前準備に必要な時間を最小限にとどめることができるワークショップのプログラムを準備したい。これにより、さほどワークショップにおける学習支援に習熟していない学生でも参加することができる。このように、学生の有無によらないワークショップの内容を準備しておくことで、さらに幅広い依頼に対応できるようになるであろう。後述するが、ワークショップのパッケージメニュー化を実施する際に、こうした視点から省力化したメニューも用意しておくことで柔軟に対応していきたい。

実際、世界の実物体験 WSP は、他のプログラムへの依頼に対するバックアップとしての役割を既に果たしつつある。例えば、国際学生訪問 WSP の依頼があっても、それに応えられない場合の代案として世界の実物体験 WSP をクライアントに提案するしている。こうした事例は、今後さらに増えていくであろう。

今後もオンラインのメディアはもちろん、従来からのニュースレターを活用した広報活動を継続していく。実際にアウトリーチ教育プログラムの依頼が増えていった場合でも、しばらくは上記のような方針で対応することができると考えられる。ただ、やみくもに実施回数を増やしていくのではなく、アウトリーチ教育プログラムの意義を理解し、信頼し合うことができるクライアントを増やしていくことで、教育活動の効果を高めたい。そうした実践を今後も積み重ねることで、地域における国際的な教育をユニークな形でリードする存在として認知され、本学の価値の向上に貢献することにつながるであろう。

5つのアウトリーチ教育プログラム
草の根プロジェクトによる



ワークショップ形式のアウトリーチ教育プログラムのパッケージメニュー化のイメージ図

ワークショップのパッケージメニュー化

既に述べた通り、2019年度に向けてワークショップのパッケージメニュー化に取り組み始めている。これは、国際学生訪問 WSP、異文化協働体験 WSP、世界の実物体験 WSP を対象に行うもので、これら3つのプログラムの共通点は、本プロジェクトが教育現場を訪問し、ワークショップ型の学習活動を実施するというものである。それぞれに、ヒト・モノの特徴を活かした学習活動を提供するものである。実際にどのような活動をするのかという点については、明確な型を示す機会が少なかった。2017年度に制作したアウトリーチ教育プログラム利用ガイドでは、それぞれのプログラムの代表的な事例を示したが、実際にはバリエーションがあり、クライアントの要望を聴きながら内容を組み立てて提案し、実行していた。しかし、これまで未就学児から大学生まで幅広い世代に多くのワークショップを実施してきた経験から、発達段階に応じた目標と活動内容を整理することで、年齢に応じたワークショップをパッケージ化することができるのではないか、という着想が得られた。これが実現できれば、問い合わせの段階でクライアント側が希望のパッケージを選択することで、打ち合わせが容易になるほ

か、ワークショップ実施後の学習計画を立てやすくなるものと考えられる。ほかにも、複数のメニューを本プロジェクトのメディアで公開することで、ワークショップの内容を可視化し、クライアントが検討しやすくなったり、本プロジェクトにおいても準備で必要な作業をパターン化し、限られた人的・時間的リソースを有効に活用することができるようになるであろう。

6頁からの清水先生による「ワークショップによる学びを子どもの発達から考える 発達に応じた異文化間能力の育成を目指して」では、本プロジェクトのワークショップにおけるねらいを「多様性の理解」と「聴く+協働」の二つに整理し、発達段階ごとにどのような内容が有効なのか、パッケージ化する上での考え方についてが述べられている。今後はこれに基づき、今までワークショップの中で実践してきた多種多様なアクティビティを再構成し、新しいメニューとして追加していく。

2019年度春の段階では小学校1~2、3~4、5~6年生と中高生の4段階に分け、それぞれ1つずつ計4つのメニューを公開する(10~11頁参照)。また、本プロジェクトは学校だけでなく、社会教育施設をはじめとした学校以外の教育現場とも数多く連携してきた。今後は社会教育施設向けのメニューも開発・公開する予定である。

ワークショップによる学びを 子どもの発達から考える

発達に応じた異文化間能力の育成を目指して

清水 貴恵

リベラルアーツ学群講師・エデュケーター

桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクト（以下、草の根プロジェクト）は、1997年の活動開始以来、3つの独自の教育リソース（以下、リソース）を最大限に活用し、学内外のさまざまな教育現場において多様な学習者を対象に学びづくりを支援してきた。その方法がアウトリーチ教育プログラム（以下、プログラム）である。

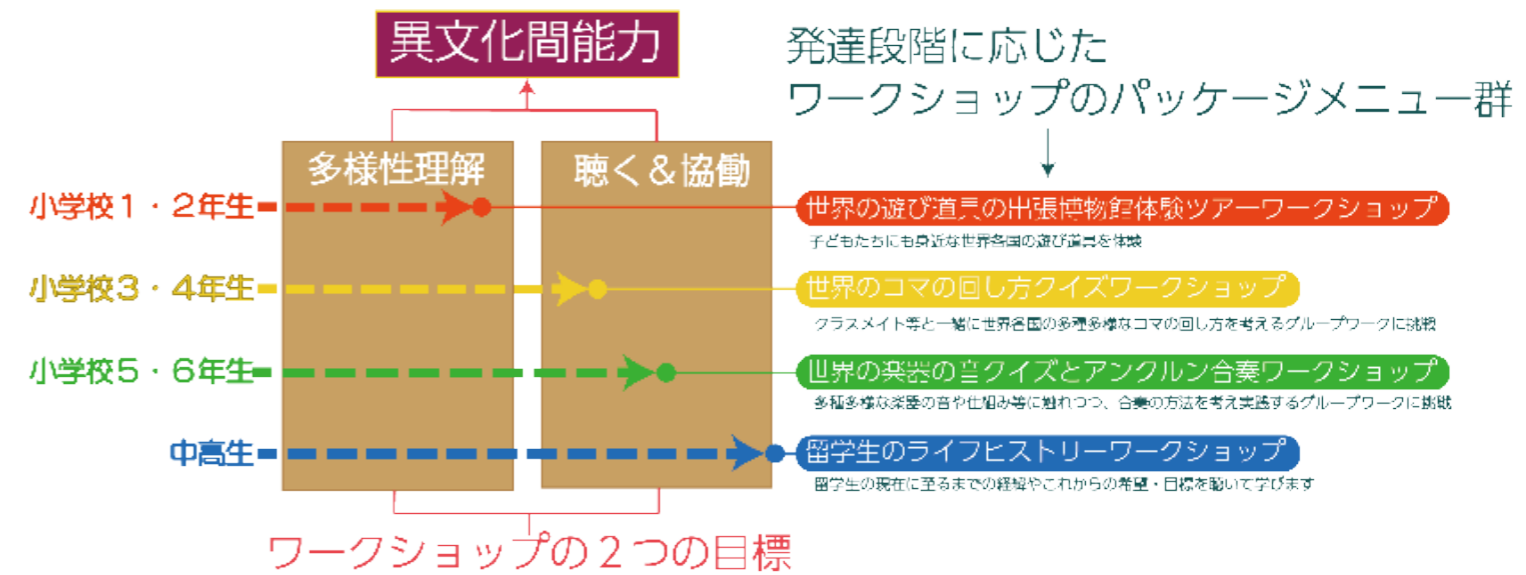
現在、草の根プロジェクトが展開しているプログラムは5つある。5つのうち、私たちが企画から実施までのすべてを担う出張授業型活動は3つである。これらはすべてワークショップ（学習者が学びの主体として参加する体験を重視した学習活動）型である。20年余りにわたる多くの現場・対象者への教育実践と研究の積み重ねにより、このようなかたちに到達した。

さて、草の根プロジェクトが独自に企画・実施する3つのワークショップ型プログラムに共通していることがある。それは、人や物・事の「多様性の理解」と、そのために必要な「聴く+協働」という2つのねらいである。これは、国際／異文化理解、あるいは他者／相互理解の学習目標である。このねらいにもとづき、草の根プロジェクトでは、筆者らエデュケーターが学習

対象者の発達段階や実態・特徴に応じた学びづくりを行ってきた。

2018年度は、学外の学校教育および社会教育の現場からのワークショップ・プログラムへの問合せや依頼が大変多く寄せられる1年であった。毎年、継続してワークショップを実施してきた学校および社会教育の現場からの依頼はもちろん、新規に相談を受けて実施する教育現場もあった。ある特定の学年・年齢を対象としたクラスで毎年授業を行っている学校／社会教育の現場であっても、子どもたちの特徴や実態はその年々で全く異なる。また、依頼者側との十分なコミュニケーション、例えば、事前の打合せや当日までの調整・やりとりなどがなされても、先方の本プロジェクトやワークショップそのものに対する理解度やワークショップへの参加度なども毎年一様ではない。現場によってその差があることは、言うまでもない。

日々刻々と変化を続ける今日、この社会は「グローバル化」「ボーダーレス化」「多様化」「複雑化」などといったことばで表される。しかし、これらのキーワードでは十分に表しきれないほど、その流動性は激しさを増している。子どもたちを取り巻く環境も常に大きく変化している



ワークショップの目標とそれに対応したパッケージメニューの関係図

のである。そもそも子どもたちは多様な存在であるし、たとえ同じ地域・学校・学年であっても「今年は違う、違った」というような実態は当然のことである。子どもたちを指導・支援する教職員についても同様のことが言える。

そこで、今年度を中心に実践をふりかえり、子どもの発達と学習を考えるとともに、各発達段階の特徴とその課題に応じたワークショップ・プログラムを開発することにした。これまでの多くの実践事例を丁寧に振り返り、検証することで、各年齢・学年の認知レベルにふさわしい活動案を提案する。

ただし、発達段階は年齢・学年で明確に線引きできるものではなく、あくまでも目安または参考として提案するものである。年齢・学年とワークショップの活動内容の組み合わせは決まった型として、いつでも、どこでも、誰にでも、同様に実施するわけではないことを、あらかじめ断っておく。実際、小学校3～4年生の子どもたちに勧めているこまを使ったワークショップは、本学授業で学群生にも実施している。各現場・対象・学習目標に応じてプログラムやファシリテーションをデザインし、アプローチのしかたを調整しながらワークショップを実施して

いるのである。言わば、「セミオーダーメイド」的な学びづくりである。したがって、共通理解を形成するためのクライアントとの十分な事前打合せ、相談・準備段階から実施・終了までの積極的な協力・連携が不可欠である。これらの点については今後も変わらない。

ここでは、草の根プロジェクトが最も携わる機会の多い対象者として、学齢期の児童生徒をとりあげ、小学生・中学生・高校生と分けて検討していく。小学生は6～12歳までと幅があり、その間の変化も非常に大きい。したがって、低学年（1～2学年）・中学年（3～4学年）・高学年（5～6学年）とさらに3段階に分け、ワークショップのプログラム案を提示する。

まず、小学校低学年である。いろいろな生活体験を通じて感受性を育む時期にある低学年には、世界各地のさまざまな遊び道具を思いきり楽しむ活動を勧めたい。子どもにとって親しみやすい、こま・けん玉・すごろくなどを通して多様性に触れることができる。生活科の昔遊びの発展、3年生から始まる総合的な学習の時間への橋渡しにもなるであろう。

次に、集団活動の力がついてきた中学年には、グループワークで構成されたワークショップへ

の移行を検討したい。遊び道具を素材にしたグループワークに生活班などでチャレンジすることで、楽しみながら他者を認めて協働する素地を伸ばす。また、物事を対象化して認識することができるようになり、少しずつ知的な探究心も芽生え始める。ただし、この時期の子どもたちの発達には個人差も顕著に見られる。そのため、ここで提案する低学年より一歩進んだワークショップが実現困難な場合もある。実施時期、あるいは実施対象の子どもたちの実態によっては、低学年の活動案のほうがより適している場合も十分考えられる。事実、今年度の実践を振り返ると、別のプログラムを実施したほうが適切であったと思われるケースもあった。勇気を持って柔軟に学習活動の内容を検討することが肝要である。

ここまで述べてきた小学校低・中学年は、「世界の実物体験ワークショップ」の活動案の一例である。この先の小学校高学年から中学・高校生については、多様な言語・文化的背景の留学生メンバーの参加により実施している「国際学生訪問ワークショップ」を活用し、どのような活動を実施するかということを検討していく。

高学年になると、徐々に抽象的な思考や他者の視点に立った物事の理解などができるようになってくる。また、集団活動の意義を理解し、共通の目標を共有するために主体的に関わる力が伸びてくる。留学生によるワークショップはこの段階以降が望ましいと考えられる。背景の異なる留学生の視点をもとに、価値判断の尺度を高める学びの機会となるであろう。ものの見方や考え方の広がり・深まりは、異文化環境であり新しいステージである中学校へと進む子どもたちに獲得してほしいと考える。

その後、中学生前後の頃、子どもたちは思春期を迎える。内省的になる一方、現実との間で悩むようになる姿がその傾向として顕著に見られる。ただ、具体的な事柄を一貫した思考で捉えられるようになってくるのも、この時期の特徴である。10代半ばを過ぎる頃、このような思春期を越えると、一人の人間としてどう生きていくか、より現実的な課題として考えるよう

になる。このような時期の子どもたちには、「少し年上の先輩」として留学生に出会う場・機会を設けてあげたい。ポイントは「少し年上の先輩」というところにある。一人の人間として地域社会へ参加・貢献する留学生の姿を目の当たりにすることで、子どもたちの一市民としての意識が刺激される。また、中高生は、親や教師の言葉には素直になれなかったり、進路を考えるさまざまな材料を求めたりしているが、他者に対して自ら思いを表現して伝えようという意識・行動にはなれない。このような思春期ゆえの特徴も混在しているうえに、発達状況の個人差も非常に大きくある。だからこそ、このワークショップでは、留学生がそれぞれライフヒストリーを語り伝え、子どもたちと共に自己や生き方を見つめることをテーマにしている。留学生が自身の文化的背景にも触れながら、その生い立ちや経験・学び、思いや考えを伝えていくと、いつしか子どもたちの顔つきは変わり、真剣なまなざしで留学生を見つめ、そのことばをかみしめるように聴き入っていく。単なる国際交流イベントとして終わらず、多様な子どもたちがそれぞれ自己の内側でさまざまな感情と思考をめぐらせる学びがもたらされる。

草の根プロジェクトでは、学校教育のほか、地域で開かれる児童生徒を対象とした生涯学習講座（教育委員会、公民館や生涯学習センターのような施設・組織が主催するクラス）の授業も、これまで数多く実施してきた。学校教育ではできないような体験学習、年齢・学年・学校などの枠を超えた地域社会における交流学习ができるのが社会教育である。この利点を活かし、さらに留学生との異文化コミュニケーションにチャレンジするのが「異文化協働体験ワークショップ」である。ご依頼いただく各現場の対象者の実態や要望などをうかがいながら企画・実施するスタイルを、今後も継続していきたい。

こうしたワークショップの活動案を検討する際、発達課題とあわせて理解しておきたいのが視点取得（perspective taking, または役割取得 role-taking）である。ワークショップは社会構成主義学習観にもとづく教授法のひと



コマの回し方をグループで考える小学生（左）留学生の声に耳を傾ける高校生（右）対象とする年齢に応じたアプローチが必要となる

つであり、学習者の協働によって学びが構成される学習活動である。そのため、ワークショップにおいて、参加者（対象者）は、他の参加者や筆者らを中心としたファシリテーター（ワークショップの実施側の者たち）との間で終始コミュニケーションをはかる。その際、参加者に求められるのが傾聴である。傾聴は、他者との関係性の構築や維持、相互理解と協働に欠かせない要素である。

この傾聴に大きく関わる能力が視点取得であると考えられる。視点取得とは、自己の視点と他者の視点の両方を持ち、他者の立場でその気持ちや考えを推測し、自分の考えや気持ちと同等に尊重して受け止め、相互に自己調整をはかりながらコミュニケーションに生かす能力のことである。対人あるいは集団において生じるさまざまな課題に対し、自己表現と他者理解に努め、相互に自己調整しながら関係性を維持し、協働していかねばならない。その際、視点取得能力が必要となる。視点取得能力は、社会性や社会的スキルの一側面であるとも言われている。共感性とも深く関わっており、例えば、他者の気持ちを思いやることを可能にする基盤的な能力であると考えられている。ただし、この視点取得能力も発達段階によって差異がある。

このように子どもの発達段階とその課題、また視点取得能力を考慮しながら、草の根プロジェクトは「多様性の理解」と「聴く+協働」の育成を目指したワークショップを展開する。この2つは「異文化間能力」を支える二本柱である。異文化間能力とは、自分とは異なる、あるいは未知の人・物・物事に会ったとき、自

分の判断基準ではない客観的でクリティカルな視点でその対象を捉え、自らの対応を思考・判断する力である。急激なグローバル化・ボーダーレス化、人や物事の多様化・複雑化が進み続ける現代を生きる力である。この力は人間的な資質・能力であり、人が生まれてから死ぬまでの生涯発達のなかで育つものだと、私たち草の根プロジェクトは考えている。異文化間能力は豊かな感受性と柔軟な思考によって成り立つ。感受性と思考は、自らの五感を刺激する体験によって、「感じる→考える」という個人内の活動が促進され、日々育まれるものである。こういった認知活動の積み重ねを通じ、異文化間能力はみがかれていく。

このような考えにもとづき、草の根プロジェクトは発達段階に応じたさまざまなワークショップの活動案の開発、実践・研究に取り組み、学内外の教育活動を支援していく。

【参考文献】

- 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎（2012）『ワークショップと学び1まなびを学ぶ』東京大学出版会
- 高橋順一（2009）「モノが育てる異文化リテラシー」中牧弘允・森茂岳雄・多田孝志編『学校と博物館でつくる国際理解教育 新しい学びをデザインする』pp.40-50 明石書店
- 本間優子・内山伊知郎（2013）「役割（視点）取得能力に関するレビュー―一道徳性発達理論と多元共感理論からの検討」『新潟青陵学会誌』第6巻第1号、pp. 97-105 新潟青陵大学

世界の楽器の音クイズとアンクルパ合奏ワークショップ

このワークショップでは、世界各国の楽器の音クイズとアンクルパの合奏体験を行います。前半の「世界の楽器の音クイズ」を通して、子どもたちの楽器のイメージや音の特徴を多く学び、後半のアンクルパの合奏体験を通して、子どもたちの楽器の音の面白さを学び、アンクルパの魅力を伝えることができます。

対象人数 最大30名程度 **所要時間** 45～60分

アンクルパ

アンクルパは、アフリカ大陸の楽器です。音は高く、リズムが特徴的です。子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

世界の楽器の音クイズ

世界の楽器の音クイズは、子どもたちが世界の楽器の音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

アンクルパ合奏体験

アンクルパ合奏体験は、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

アンクルパの音クイズ

アンクルパの音クイズは、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

世界の遊び道具の出張博物館 体験ワークショップ

このワークショップでは、世界各地の遊び道具の展示と体験を行います。前半の「世界の遊び道具の展示」を通して、子どもたちの世界の遊び道具の面白さを学び、後半の体験ワークショップを通して、子どもたちの遊び道具の面白さを学び、世界の遊び道具の魅力を伝えることができます。

対象人数 最大30名程度 **所要時間** 45～60分

アンクルパ

アンクルパは、アフリカ大陸の楽器です。音は高く、リズムが特徴的です。子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

世界の遊び道具の展示

世界の遊び道具の展示は、子どもたちが世界の遊び道具の面白さを学びます。

アンクルパ合奏体験

アンクルパ合奏体験は、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

アンクルパの音クイズ

アンクルパの音クイズは、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

留学生のライブヒストリーワークショップ

本ワークショップでは、留学生のライブヒストリーを学ぶことができます。前半の「留学生のライブヒストリー」を通して、子どもたちの留学生のライブヒストリーの面白さを学び、後半のワークショップを通して、子どもたちのライブヒストリーの面白さを学び、留学生のライブヒストリーの魅力を伝えることができます。

対象人数 最大30名程度 **所要時間** 60分～90分

アンクルパ

アンクルパは、アフリカ大陸の楽器です。音は高く、リズムが特徴的です。子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

留学生のライブヒストリー

留学生のライブヒストリーは、子どもたちが留学生のライブヒストリーの面白さを学びます。

アンクルパ合奏体験

アンクルパ合奏体験は、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

アンクルパの音クイズ

アンクルパの音クイズは、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

世界の回し方クイズ

このワークショップでは、世界各地の回し方クイズの展示と体験を行います。前半の「世界の回し方クイズの展示」を通して、子どもたちの世界の回し方クイズの面白さを学び、後半の体験ワークショップを通して、子どもたちの回し方クイズの面白さを学び、世界の回し方クイズの魅力を伝えることができます。

対象人数 最大30名程度 **所要時間** 45～60分

アンクルパ

アンクルパは、アフリカ大陸の楽器です。音は高く、リズムが特徴的です。子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

世界の回し方クイズ

世界の回し方クイズは、子どもたちが世界の回し方クイズの面白さを学びます。

アンクルパ合奏体験

アンクルパ合奏体験は、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

アンクルパの音クイズ

アンクルパの音クイズは、子どもたちがアンクルパの音を聞き、その音の特徴をクイズ形式で学びます。

2018年度メンバーと活動実績

代表

石塚 美枝 (教員 / 日本語教育)

運営委員

荒木 晶子 (教員 / コミュニケーション)、金子 淳 (教員 / 博物館学)

鷹木 恵子 (教員 / 文化人類学)、浜田 弘明 (教員 / 博物館学)

福原 信広 (職員 / 地域社会連携室 * 2018年9月まで)

エドゥケーター

清水 貴恵 (教員 / 生涯学習・国際理解教育・日本語教育)

エドゥケーター 兼 アウトリーチ教育コーディネーター

岩本 貴永 (専属スタッフ / 博物館学芸員有資格者)

学生

<リベラルアーツ学群>

バヤルト オド ツォルモン (ツォモ)、金澤 穂香、戸谷 美森、長田 萌香、小澤 知歩、後藤 優衣、椎橋 郁実、山中 里帆菜、高 斉賢、朴 藝恩、石橋 和樹、錦郡 佳奈、ゾリクト アリウンバヤル (アルカ)、表 美夏、栗原 紗耶、榊原 美友、若林 凜香、浅井 香穂、佐藤 瑛里子、村山 千水、佐藤 百恵

<ビジネスマネジメント学群>

呉 文睿、グエン チャン パオ クエン (クエン)、郭 采盈

<芸術文化学群>

小林 左京、但野 優希

<健康福祉学群>

何 静旻

<グローバルコミュニケーション学群>

陳 麒宇

<交換留学生>

パロニオ ミランダ、張 心蓉、ジェラルド ケーモン、李 春梅

国際学生訪問ワークショッププログラム

No.	日付	クライアント・連携協力先	会場	参加者数
1	2018年5月23日(水)	神奈川県立相原高等学校総合ビジネス科	本学 荊冠堂 小礼拝堂	36
2	2018年6月14日(木)	町田市立木曽堀川小学校	同校 体育館	88
3	2018年6月27日(水)	多摩市立大松台小学校	同校 体育館	90
4	2018年10月31日(水)	相模原市立谷口小学校	谷口小学校 プレイルーム	50
5	2018年11月21日(水)	町田市立町田第三小学校	町田市立町田第三小学校 体育館	60
6	2018年12月5日(水)	町田市立武蔵岡中学校	同校 多目的室	80
				404

異文化協働体験ワークショッププログラム

No.	日付	クライアント・連携協力先	会場	参加者数
1	2018年7月21日(土)	本学主催・相模原市教育委員会後援	本学 第二国際寮	13
2	2018年7月21日(土)	本学主催・相模原市教育委員会後援	本学 第二国際寮	7
3	2018年10月20日(土)	武蔵野プレイス (武蔵野市生涯学習振興事業団)	武蔵野プレイス フォーラム	28
4	2018年11月10日(土)	武蔵野プレイス (武蔵野市生涯学習振興事業団)	武蔵野プレイス 4階フォーラム	23
5	2018年11月24日(土)	青梅市教育委員会 国際理解講座	青梅市福祉会館	28
6	2018年11月24日(土)	青梅市教育委員会 国際理解講座	青梅市福祉会館	24
				123

世界の実物体験ワークショッププログラム

No.	日付	クライアント・連携協力先	会場	参加者数
1	2018年5月7日(月)	リベラルアーツセミナー (滝澤美佐子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	13
2	2018年5月10日(木)	リベラルアーツセミナー (堀井聡江先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	14
3	2018年5月15日(火)	リベラルアーツセミナー (出島有紀子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	15
4	2018年5月18日(金)	リベラルアーツセミナー (阿部温子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	14
5	2018年5月21日(月)	リベラルアーツセミナー (大中真先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	15
6	2018年5月24日(木)	リベラルアーツセミナー (佐藤以久子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	14
7	2018年5月29日(火)	リベラルアーツセミナー (藤原峰先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	13
8	2018年6月1日(金)	リベラルアーツセミナー (原田美知子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	14
9	2018年6月1日(金)	生涯学習相談 (清水貴恵先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	36
10	2018年7月9日(月)	相模原市立鶴の台小学校	同校 生活科室	99
11	2018年7月11日(水)	博物館教育論 (石渡尊子先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	50
12	2018年7月31日(火)	がくどうプラス	がくどうプラス 1階	29
13	2018年8月2日(木)	遊びと生活 (健康福祉学群)	本学 サレンパーガー館1001教室	15
14	2018年9月22日(土)	町田市子どもセンターただON	同館 2階調理室「ことごと」	19
15	2018年11月3日(土)	青梅市教育委員会 国際理解講座	青梅市福祉会館	20
16	2018年11月3日(土)	青梅市教育委員会 国際理解講座	青梅市福祉会館	32
17	2018年11月9日(金)	生涯学習相談 (清水貴恵先生)	本学 荊冠堂 小礼拝堂	50
18	2018年11月23日(金)	年少者日本語教育 (リベラルアーツ学群)	荊冠堂 小礼拝堂	17
19	2018年12月13日(木)	町田市立本町田小学校	同校 体育館	15
20	2019年1月11日(金)	博物館教育論 (石渡尊子先生)	本学 明々館A002	60
21	2019年1月11日(金)	日本語Ⅱa (新井弘泰先生)	本学 其中館301 (草の根プロジェクト)	7
22	2019年1月17日(木)	相模原市立田名小学校	同校 ビロティ	121
23	2019年2月2日(土)	横浜市立並木第一小学校	同校 図書室	68
24	2019年2月14日(木)	町田市立忠生小学校	同校 オープンルーム	90
25	2019年2月20日(水)	町田市立山崎小学校	同校 「麗こえ」 教室	59
				899

* 2018年7月26日(木)に実施を予定していた相模原市立向陽小学校におけるワークショップが猛暑のため中止

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

No.	日付	クライアント・連携協力先	会場	参加者数
1	2018年5月3日(木)	バルテノン多摩キッズファクトリー	バルテノン多摩 キッズファクトリー	161
2	2018年10月6日(土)	町田市立国際版画美術館	同館 講堂	200
3	2018年10月14日(日)	相模原市立市民・大学交流センター ユニコムプラザさがみはら	ユニコムプラザさがみはら スタジオ	120
4	2018年12月16日(日)	公益財団法人大和市国際化協会	大和市/市民活動拠点ペテルギウス	407
5	2019年1月20日(日)	相模原市立男女共同参画推進センター ソレイユさがみ	ソレイユさがみ セミナールーム2	356
6	2019年2月24日(日)	地球市民フェスタ in ODAWARA	川東タウンセンターマロニエ 301室	420
7	2019年3月3日(日)	新宿区 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部	新宿区立西新宿小学校 体育館	300
				1964

- * 2018年9月30日(木) 本学第二国際寮における実施予定が台風のため中止
- * 2019年2月9日(土) 東京都立多摩図書館における実施予定が降雪のため中止

異文化発見キット貸出プログラム

No.	貸出日	返却日	貸出先	目的	参加者数
1	2018年3月14日(水)	2018年4月11日(水)	さがみはら国際交流フロンティア	体験型ワークショップ	-
2	2018年4月14日(土)	2018年4月28日(土)	博物館実習「やさしく楽しい字づくり」(漢字) (清水美奈先生)	実習教材	4
3	2018年4月14日(土)	2018年4月28日(土)	博物館実習「やさしく楽しい字づくり」(カタカナ) (清水美奈先生)	実習教材	3
4	2018年4月27日(金)	2018年4月27日(金)	南光林1号館	小学校におけるクラブ活動	-
5	2018年5月9日(水)	2018年5月30日(水)	第一フェスタさがみ	第一フェスタさがみ	100
6	2018年5月19日(土)	2018年5月19日(土)	博物館実習「人立資料の取り扱い」(田中純先生)	実習教材	-
7	2018年6月20日(水)	2018年7月2日(水)	さがみはら国際交流フロンティア	さがみはら国際交流フロンティアにおけるロシアをテーマにした展示	-
8	2018年7月20日(水)	2018年7月13日(金)	新田国際交流センター	新田国際交流センターまつり	1344
9	2018年7月27日(金)	2018年8月2日(木)	新田立大立大創設50周年	新田立大立大創設50周年における中華文化をテーマにしたイベント	27
10	2018年8月20日(水)	2018年8月20日(水)	玉川学園子どもクラブこころ見聞館	玉川学園子どもクラブこころ見聞館	20
11	2018年10月15日(月)	2018年10月31日(水)	横浜モンテソーリ幼稚園	幼稚園における保護者による異文化紹介	80
12	2018年10月31日(水)	2018年11月5日(日)	新田国際交流センター	新田国際交流センターアジア祭り会場 (0ぼっぼまちだ)	-
13	2018年11月1日(木)	2018年11月5日(日)	町田国際交流センター	町田国際交流センターアジア祭り会場 (0ぼっぼまちだ)	140
14	2018年11月1日(木)	2018年11月1日(木)	中野社会科・地理歴史科教育会 (田中純先生)	石巻市の学生との交流活動 ¹⁾	20
15	2018年11月1日(木)	2018年11月1日(木)	中野社会科・地理歴史科教育会 (田中純先生)	石巻市の学生の交流活動 ²⁾	20
16	2018年11月5日(月)	2019年1月16日(水)	神奈川県立東海高等学校	同校生協賛における外国語生徒を中心としたファッションショー	270
17	2018年11月5日(月)	2019年1月16日(水)	福原市立大沢小学校	4年生の総合的な学習の時間	60
18	2018年11月6日(火)	2018年11月13日(火)	玉川学園ユネスコクラブ	ユネスコ (玉川学園の大学部)	50
19	2018年11月9日(金)	2019年1月22日(水)	横浜市立つがが丘小学校ワールドサポーターズ	1-6年生の授業	490
20	2018年11月20日(水)	2019年1月30日(水)	神奈川県立相模原中央高等学校	11月30日の総合的な学習の時間	4
21	2018年11月28日(水)	2018年12月3日(月)	新田国際交流センター	新田市のイベント「まちカフェ」にて使用	-
22	2019年1月25日(金)	2019年2月8日(金)	東京都立多摩図書館	同館ギャラリーにおける開館2周年記念イベントの展示	-
23	2019年1月31日(木)	2019年2月5日(水)	相模原市立谷津小学校	同校2年生の授業	147
24	2019年2月5日(金)	2019年2月12日(水)	東京都立多摩図書館	同館ギャラリーにおける開館2周年記念イベントの展示	-
25	2019年2月5日(金)	2019年2月21日(木)	東京都立多摩図書館	同館ギャラリーにおける開館2周年記念イベントの展示	-
26	2019年2月12日(水)	2019年3月7日(水)	東京都立多摩図書館	町田市立大沢小学校におけるベトナム紹介の授業	7
27	2019年2月15日(金)	2019年2月22日(金)	新田町立大沢小学校	同校2年生の授業	87
28	2019年2月21日(木)	2019年3月14日(木)	東京都立多摩図書館	同館ギャラリーにおける開館2周年記念イベントの展示	9841 ³⁾
29	2019年3月5日(火)	2019年3月15日(金)	私立光臨小学校	同校1年生の授業	60
					12767

- (1)・(2) 同一の授業で2組の学生が個別に利用
- (3) 東京都立多摩図書館において1月25日から3月14日に開催された開館2周年記念イベントの展示の合計入場者数

2018年度に実施したワークショップ・出張博物館概要



留学生の母語のじゃんけんを全員で楽しむ

2018年6月14日(木) 町田市立木曽境川小学校における国際学生訪問ワークショッププログラムにて

◎実施日時

2018年5月3日(木) 11:00 ~ 16:00

🎯実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝クライアント連携・協力先

パルテノン多摩キッズファクトリー

📍会場

同上

😊参加者

161名 年齢制限なし

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：小澤・椎橋・山中・ケン・石橋・錦郡

📖実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・コマ・けんだまのハンズオン展示



左からマンカラ、民族衣装、コマを体験する様子。



実施に携わった学生メンバーとエドゥケーター。

◎実施日時

2018年5月7日(月) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (滝澤美佐子先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

13名 大学1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：戸谷・錦郡

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



触察伝言ゲームで世界のコマを観察する学生たちとエドゥケーター。



コマの回し方伝言ゲームでパートナーにコマの回し方を伝える学生。

◎実施日時

2018年5月10日(木) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (堀井聡江先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

14名 大学1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：金澤・小澤

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



コマの回し方伝言ゲームでパートナーにコマの回し方を伝える学生。



インドネシアの楽器「アンクルン」の合奏に取り組む。

◎実施日時

2018年5月15日(火) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (出島有紀子先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

15名 大学1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：小澤・石橋

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



触察伝言ゲームでどんなコミュニケーションをしたのか、考えたのか振り返る。



インドネシアの楽器「アンクルン」の合奏の方法をグループで相談する。

◎実施日時

2018年5月18日(金) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (阿部温子先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

👥参加者

14名 大学1年生

👤実施メンバー

エドゥケーター: 岩本・清水 / 学生: 金澤・石橋

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



触察伝言ゲームで題材とする世界のコマをグループで順番に触察する。



グループで試行錯誤、活発にコミュニケーションしながらアンクルンの合奏に取り組む。

◎実施日時

2018年5月21日(月) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (大中真先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

👥参加者

15名 大学1年生

👤実施メンバー

エドゥケーター: 岩本・清水 / 学生: 戸谷・錦郡

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



イントロダクション後のアイスブレイクを兼ねたグループ分けのゲーム。



グループごとにアンクルンを合奏する方法を考える。

◎実施日時

2018年5月23日(水) 9:45 ~ 11:45

🎯実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

神奈川県立相原高等学校総合ビジネス科

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

👥参加者

36名 高校3年生

👤実施メンバー

エドゥケーター: 岩本・清水 / 学生: ツオモ・金澤・ケン・呉・朴・郭

📖実施内容

イントロダクション→学校文化にびっくりクイズ→先輩学生のライフストーリーを聴いて自分のこれからのことを考えてみよう



イントロダクション。



グループごとに車座になって留学生のライフストーリーを聴く。

◎実施日時

2018年5月24日(木) 16:10 ~ 17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (佐藤以久子先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

👥参加者

14名 大学1年生

👤実施メンバー

エドゥケーター: 岩本・清水 / 学生: 長田・椎橋

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



グループごとにコマの回し方を考える。



最後に全員でアンクルンの合奏をする。

◎実施日時

2018年5月29日(火) 16:10 ~ 17:40

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (薛恩峰先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

13名 大学1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：金澤・小澤

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



グループでコマの回し方を考える。



インドネシアのアンクルンの合奏の前に音の出し方を考える。

◎実施日時

2018年6月1日(金) 16:10 ~ 17:40

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

リベラルアーツセミナー (原田美知子先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

14名 大学1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：金澤・椎橋

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界のコマの回し方伝言ゲーム→アンクルン 合奏チャレンジ



触察伝言ゲームで伝言がなぜ成功したのか、うまくいかなかったのか振り返る。



次に取り組むアクティビティを伝えている様子。

◎実施日時

2018年6月1日(金) 9:00 ~ 10:00

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

生涯学習概論 (清水貴恵先生)

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

36名 大学1~4年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム



触察伝言ゲームでグループごとに課題の成否を確認する。



ワークショップ後の授業のレクチャー。

◎実施日時

2018年6月14日(木) 14:25 ~ 15:10

🌐実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立木曽境川小学校

📍会場

同校 体育館

😊参加者

88名 小学3年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ・高・朴

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の習慣クイズ→世界のじゃんけん紹介&体験



留学生による各国のじゃんけんを紹介する。



じゃんけんの紹介後には、留学生と子どもたちによるじゃんけん大会。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年6月27日(水) 10:20 ~ 11:40

🌐実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

多摩市立大松台小学校

📍会場

同校 体育館

😊参加者

90名 小学4年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:ツォモ・呉・クエン・郭・朴

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の習慣クイズ→カルチャーショッククイズ→モンゴルチェーン



留学生の故郷の習慣を題材にしたクイズで子どもたちに問いかける様子。



当日参加した留学生。

◎実施日時

2018年7月9日(月) 10:25 ~ 12:20

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

相模原市立鶴の台小学校

📍会場

同校 生活科室

😊参加者

99名 小学3年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本 / 学生:長田

📖実施内容

イントロダクション→世界のコマの回し方クイズ



コマの回し方クイズで、回し方をグループで考える子どもたち。



インドネシアのコマの回し方を紹介し、実演する学生スタッフ。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年7月11日(水) 14:30 ~ 16:00

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

博物館教育論 (石渡尊子先生)

📍会場

本学荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

50名 大学1~4年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本 / 学生:小澤・錦郡

📖実施内容

草の根プロジェクトの活動内容に関するレクチャー→触察伝言ゲーム→コマの回し方クイズ



本プロジェクトの活動内容に関するレクチャーの様子。この後、事例紹介として触察伝言ゲームを行う。



触察伝言ゲームの後にグループごとにコマの回し方を考える。

◎実施日時

2018年7月21日(土) 10:00 ~ 12:00

🌐実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

本学主催・相模原市教育委員会後援

📍会場

本学 第二国際寮

😊参加者

13名 小学1~3年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:ツォモ・小澤・椎橋・山中・クエン・郭・高・朴・錦郡・張

📖実施内容

ターラー・ターラー (ドイツの遊び) →バタタケンチ (ブラジルの遊び) →イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界の遊び体験 (コマ・けんだま) →ものづくり伝言ゲーム (チクタク) →ワークシートの完成



子どもたちに自己紹介する留学生。



実施に携わった学生メンバー。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年7月21日(土) 14:00～16:00

🎯実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

本学主催・相模原市教育委員会後援

📍会場

本学 第二国際寮

😊参加者

7名 小学4～6年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:ツォモ・小澤・椎橋・山中・ケン・朴・錦郡・張

📖実施内容

ひざ下かくし(ミャンマーの遊び)→イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界の遊び体験(コマ・けんだま)→世界の遊びの伝言ゲーム(マンカラ)→ワークシートの完成



イントロダクション前にアイスブレイクのために行ったゲーム。



留学生によるマンカラの遊び方の説明に耳を傾ける子どもたち。

◎実施日時

2018年7月31日(火) 9:00～11:45

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

がくどうプラス

📍会場

がくどうプラス1階

😊参加者

29名 小学1～5年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本 / 学生:ツォモ・金澤

📖実施内容

イントロダクション→マンカラ体験



イントロダクションでの全体への遊び方の紹介後、全員がマンカラを実施に遊んで体験する。



世界各国のマンカラを集めて比較する。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年8月2日(木) 16:10～17:40

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

遊びと生活(健康福祉学群)

📍会場

本学サレンバーガー館1001教室

😊参加者

15名 大学3～4年生

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本 / 学生:後藤・戸谷

📖実施内容

イントロダクション→触察伝言ゲーム→世界のコマの回し方クイズ→世界の遊び体験(コマ・けんだま)



触察伝言ゲームで世界の遊び道具を観察する学生たち。



グループでコマの回し方を考える。

◎実施日時

2018年9月22日(土) 10:30～11:30

🎯実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市子どもせんたーただON

📍会場

同館2階調理室「ことこと」

😊参加者

19名 年齢制限なし

👥実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水

📖実施内容

イントロダクション→世界のコマの回し方クイズ→世界の遊び体験(けんだま・へびとはしご)



コマの回し方クイズの様子。未就学児を含んだ親子での参加が多く幅広い世代が参加するワークショップとなった。



インド発祥のすごろく「へびとはしご」を参加者同士と一緒に体験する。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年10月6日(土) 10:00 ~ 16:30

🌐実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立国際版画美術館

📍会場

同館 講堂

😊参加者

200名 年齢制限なし

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：戸谷・小澤・後藤・椎橋・山中・錦郡・表・榊原・若林

📖実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・けんだまのハンズオン展示



会場の様子。左が世界のすごろく・ボードゲーム、右が世界の民族衣装の展示。



じゅうたん敷きの会場であったため、床に敷いた布の上に展示。

◎実施日時

2018年10月14日(日) 10:00 ~ 15:00

🌐実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝クライアント連携・協力先

相模原市立市民・大学交流センター ユニコムプラザさがみはら

📍会場

ユニコムプラザさがみはら スタジオ

😊参加者

120名 年齢制限なし

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：長田・小澤・後藤・山中・栗原

📖実施内容

世界の民族衣装のハンズオン展示・民族文様のプラ板キーホルダー工作



本プロジェクトの民族衣装の文様を写し取り、彩色してオリジナルのキーホルダーを作る子どもたち。



民族衣装を着て記念写真を撮る。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年10月20日(土) 14:00 ~ 16:00

🌐実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

(公財) 武蔵野市生涯学習振興事業団

📍会場

武蔵野プレイス フォーラム

😊参加者

28名 小学1~3年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：後藤・椎橋・長田・金澤・アルカ・ケーモン・李(春梅)・表

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の遊び・習慣クイズ→世界の遊び体験(けんだま・へびとはしご・シャガイ)→ものづくり伝言ゲーム(チクタク)



留学生によるクイズに答える子どもたち。



モンゴルの羊の骨「シャガイ」で遊ぶ学生と子どもたち。

◎実施日時

2018年10月31日(水) 10:00 ~ 11:00

🌐実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

相模原市立谷口小学校

📍会場

同校 プレイルーム

😊参加者

50名 小学6年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ・呉・クエン

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の習慣クイズ→カルチャーショッククイズ→モンゴル手繋ぎの輪



留学生によるクイズに答える子どもたち。



手の繋ぎ方を説明する留学生。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年11月3日(土) 11:00 ~ 11:50

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

青梅市教育委員会 国際理解講座

📍会場

青梅市福祉会館

😊参加者

20名 小学5年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：小澤・石橋

📖実施内容

パタタケンチ（ブラジルの遊び）→イントロダクション→コマ回し伝言ゲーム



イントロダクション。



協力してコマを回そうとする子どもたち。

◎実施日時

2018年11月3日(土) 13:30 ~ 14:20

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

青梅市教育委員会 国際理解講座

📍会場

青梅市福祉会館

😊参加者

32名 小学6年生～高校1年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：小澤・石橋

📖実施内容

イントロダクション→コマ回し伝言ゲーム→ものづくり伝言ゲーム



説明係がマニュアルをもとに手順を説明し、工作係が作業を進め完成させる。



口頭による説明に加えてジュスチャーで伝えようとする説明係の子どもたち。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年11月9日(金) 14:30 ~ 16:00

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

生涯学習概論（清水貴恵先生）

📍会場

本学 荊冠堂 小礼拝堂

😊参加者

50名 大学1～4年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本

📖実施内容

イントロダクション→コマ回し伝言ゲーム→ものづくり伝言ゲーム



協力してものづくり伝言ゲームに取り組む学生たち。



続けて行われた授業の様子。

◎実施日時

2018年11月10日(土) 14:00 ~ 16:00

🌐実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

(公財) 武蔵野生涯学習振興事業団

📍会場

武蔵野プレイス フォーラム

😊参加者

23名 小学1～3年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：戸谷・ツオモ・山中・クエン・錦郡・アルカ・栗原

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の習慣クイズ→コマ回し伝言ゲーム→世界の遊び体験（けんだま・コマ）→ものづくり伝言ゲーム（チクタク）



留学生からコマの回し方の説明を聞き、子どもたちがコマ回しに取り組む。



ものづくり伝言ゲームで子どもたちに説明をする留学生。

◎実施日時

2018年11月21日(水) 10:00～11:00

🌐実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立町田第三小学校

📍会場

同校 体育館

👥参加者

60名 小学6年生

👤実施メンバー

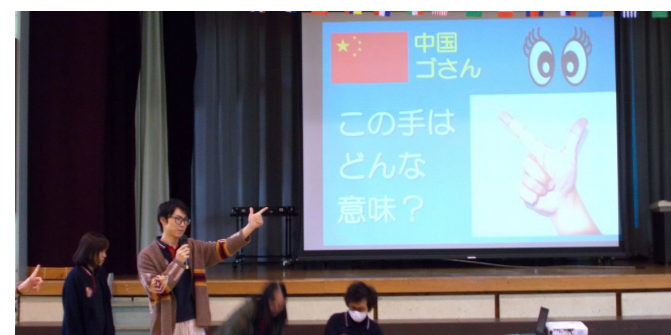
エドゥケーター：清水 / 学生：ツォモ・呉・クエン・朴

📖実施内容

イントロダクション→留学生の自己紹介→世界の習慣クイズ→カルチャーショッククイズ



エドゥケーターによるイントロダクション。



留学生による手の形の意味に関するクイズ。

◎実施日時

2018年11月23日(金) 12:50～14:20

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

年少者日本語教育(川田 麻記先生)

📍会場

荊冠堂 小礼拝堂

👥参加者

17名 大学3～4年生

👤実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ

📖実施内容

イントロダクション→コマ回し伝言ゲーム→世界のけんだま体験とそれらを活用した教育活動の検討・発表



世界のけんだまを観察・体験する学生。この後、グループごとにけんだまを活用した教育活動を検討する。



グループごとに検討した活動案を共有する。

◎実施日時

2018年11月24日(土) 11:00～11:50

🌐実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

青梅市教育委員会 国際理解講座

📍会場

青梅市福祉会館

👥参加者

28名 小学5年生

👤実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ・アルカ・ケーモン

📖実施内容

イントロダクション→世界の習慣クイズ→触察伝言ゲーム



イントロダクション。



触察伝言ゲームで子どもたちに触察したモノの情報を伝える留学生。

◎実施日時

2018年11月24日(土) 13:30～14:20

🌐実施したプログラム

異文化協働体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

青梅市教育委員会 国際理解講座

📍会場

青梅市福祉会館

👥参加者

24名 小学6年生～高校1年生

👤実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ・アルカ・ケーモン

📖実施内容

イントロダクション→世界の習慣クイズ→触察伝言ゲーム触察伝言ゲーム



触察伝言ゲームで子どもたちに触察したモノの情報を伝える留学生。



実施に携わったエドゥケーターと留学生。

2018年度アウトリーチ教育プログラム概要

◎実施日時

2018年12月5日(水) 13:30～14:20

🌐実施したプログラム

国際学生訪問ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立武蔵岡中学校

📍会場

同校 多目的室

👤参加者

80名 中学1～3年生

👥実施メンバー

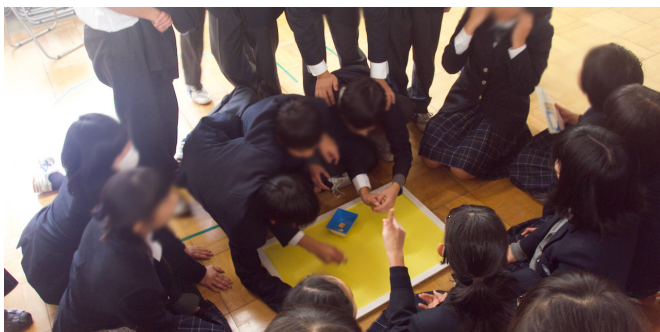
エデュケーター：岩本・清水 / 学生：ツォモ

📖実施内容

イントロダクション→学校文化にびっくりクイズ
→先輩学生のライフヒストリーを聴いて自分のこれからのことを考えてみよう



このワークショップでは、モンゴルからの留学生のバイルト・オド・ツォルモンさんが大部分の進行を担った。



モンゴル文化の紹介として、シャガイ占いの体験をする時間を設けた。

◎実施日時

2018年12月13日(木) 9:35～10:40

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立本町田小学校

📍会場

同校 体育館

👤参加者

39名 小学1～6年生(特別支援学級)

👥実施メンバー

エデュケーター：岩本・清水 / 学生：石橋

📖実施内容

イントロダクション→世界の遊び体験(インドネシアの竹コマ・世界のけんだま・ブラジルのけんだまチクタク)



世界のけんだまを体験する子どもたち。



インドネシアの大型竹コマの回る様子を観察する。

🕒 実施日時

2018年12月16日(日) 10:00 ~ 15:00

📋 実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝 クライアント連携・協力先

公益財団法人大和市国際化協会

📍 会場

大和市 市民活動拠点ベテルギウス

👤 参加者

407名 年齢制限なし

👥 実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:ツォモ・小澤・山中・錦郡・表・クエン・若林・陳

📖 実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・コマ・けんだまのハンズオン展示



世界のコマの展示。



世界の民族服を着て記念写真を撮影する来場者。

🕒 実施日時

2019年1月11日(金) 10:40 ~ 12:10

📋 実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝 クライアント連携・協力先

博物館教育論 (石渡尊子先生)

📍 会場

本学 明々館 A002

👤 参加者

60名 大学1~4年生

👥 実施メンバー

エドゥケーター:岩本

📖 実施内容

草の根プロジェクトの活動内容に関するレクチャー→触察伝言ゲーム→コマの回し方クイズ



◎実施日時

2019年1月20日(日) 10:10 ~ 12:30

🌟実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🏠クライアント連携・協力先

相模原市立男女共同参画推進センター ソレイユさがみ

📍会場

ソレイユさがみ セミナールーム2

😊参加者

356名 年齢制限なし

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：戸谷・椎橋・山中・ケン・アルカ・陳・栗原・何

📖実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・コマ・けんだまのハンズオン展示



世界のすごろく・ボードゲームの展示を楽しむ子どもや保護者。



未就学児からその保護者まで3世代と一緒に楽しみ、異文化に触れる場となった。

◎実施日時

2019年2月2日(土) 10:35 ~ 12:15

🌟実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🏠クライアント連携・協力先

横浜市立並木第一小学校

📍会場

同校 図書室

😊参加者

68名 小学2年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水 / 学生：椎橋・錦郡・若林

📖実施内容

イントロダクション→世界の遊び体験(インドネシアの竹コマ・けんだま・へびとはしご)



けんだまの遊び方を説明する学生スタッフ。



インドネシアの大型の竹コマの風圧を手で感じとる子どもたち。

◎実施日時

2019年1月11日(金) 11:00 ~ 12:00

🌟実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🏠クライアント連携・協力先

日本語II a (新井弘泰先生)

📍会場

本学 其中館301(草の根プロジェクト)

😊参加者

7名 大学生(交換留学生、日本人ゲスト学生)

👥実施メンバー

エドゥケーター：清水

📖実施内容

世界の実物資料の体験



◎実施日時

2019年1月17日(木) 9:35 ~ 11:45

🌟実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🏠クライアント連携・協力先

相模原市立田名小学校

📍会場

同校 ピロティ

😊参加者

121名 小学2年生

👥実施メンバー

エドゥケーター：岩本・清水

📖実施内容

イントロダクション→モンゴルに関する基礎的な知識と習慣に関するクイズ→馬頭琴体験→シャガイ体験



モンゴルに関するクイズに答える子どもたち。



エドゥケーターの支援のもと馬頭琴を体験する子どもたち。

◎実施日時

2019年2月24日(日) 10:00 ~ 16:00

🌐実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝クライアント連携・協力先

地球市民フェスタ in ODAWARA

📍会場

川東タウンセンターマロニエ 301 室

👥参加者

420名 年齢制限なし

👩‍🎓実施メンバー

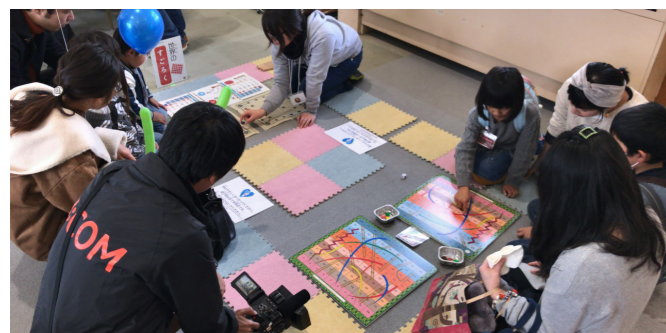
エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:ツオモ・小澤・何・小林・但野・村山

📖実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・コマ・けんだまのハンズオン展示



アメリカのけんだまの遊び方を子どもたちに紹介する学生メンバー。



韓国のユンノリとインドのへびとはしごを体験する子どもや保護者。

◎実施日時

2019年3月3日(日) 10:00 ~ 16:30

🌐実施したプログラム

世界の遊びと衣装の出張博物館プログラム

🤝クライアント連携・協力先

新宿区 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部

📍会場

新宿区立西新宿小学校 体育館

👥参加者

300名 年齢制限なし

👩‍🎓実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:クエン・高・浅井・小林・佐藤(瑛)・佐藤(百)・村山

📖実施内容

世界の民族衣装・すごろく・ボードゲーム・コマ・けんだまのハンズオン展示



展示した世界のけんだまを整理する学生メンバー。



実施に携わった学生メンバー。

◎実施日時

2019年2月14日(木) 9:35 ~ 12:15

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立忠生小学校

📍会場

同校 オープンルーム

👥参加者

90名 小学4年生

👩‍🎓実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:錦郡

📖実施内容

イントロダクション→世界のコマの回し方クイズ



コマの回し方を説明するエドゥケーターと、それを聞く子どもたち。



グループごとにコマ回しに取り組む。

◎実施日時

2019年2月20日(水) 9:35 ~ 11:25

🌐実施したプログラム

世界の実物体験ワークショッププログラム

🤝クライアント連携・協力先

町田市立山崎小学校

📍会場

同校「聞こえ」教室

👥参加者

59名 小学6年生

👩‍🎓実施メンバー

エドゥケーター:岩本・清水 / 学生:石橋

📖実施内容

イントロダクション→世界の楽器の音クイズ→楽器の自由体験→アンクルン 合奏チャレンジ



世界の楽器の音クイズで楽器の音に耳を傾ける子どもたち。



クイズでそれぞれが考えた楽器を指し示す子どもたち。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



 **バヤルト オド ツオルモン**
モンゴル **Баярт - Од Цолмон**

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2015年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 46回

草の根国際理解教育支援プロジェクトは、私の大学生活の中で最も長く続けた活動であり、大切な居場所の一つでした。私は2015年9月に正規留学生として桜美林大学へ入学しました。日本に来てまもなく、まだ大学生活にも慣れていなかったとき、当時4年生だった先輩の誘いで、何もわからないまま草の根プロジェクトに行ったのをはっきりと覚えています。清水先生や岩本先生から活動の説明を受けたとき、将来、日本語教師になりたかった自分にとって、子どもと関わる貴重な体験になると考え、メンバーとなりました。

初めての活動は、地元の国際交流フェスティバルで開いた出張博物館でした。「先輩がいるから大丈夫！」という考えで行きましたが、当日、その先輩は体調不良で早退してしまいました。頼りにしていた先輩がいなくなり、焦りの気持ちでいっぱいでしたが、なんとかその日を無事に終え、すごく疲れて家に帰ったことを思い出します。そんなに疲れたのは、たぶん久しぶりのことでしたが、それと同時に心は達成感と充実感であふれていました。そのときから、草の根プロジェクトのさまざまなワークショップや出張博物館に参加しました。卒業を迎えた

今、私の地域でのアウトリーチ活動は合計45回となり、一番古いメンバーとなりました。正直、自分でも信じられません。

次に、1年生の頃から今まで活動してきた中で最も「楽しかった」ひとときを振り返ろうと思います。まず何よりも、私たちが遊び道具の遊び方やふるさとの文化のクイズなど、何かを子どもたちに伝える活動が思い出されます。私は、こどもたちの輝いた目を見るのが大好きでした。その瞬間、国、言語、文化、考え方、年齢などいろいろな壁を乗り越え、子どもと私が「繋がった」とはっきり感じます。たとえ、どんなに忙しく、疲れ果てていても、そんな子どもたちの目を見れば、疲れている自分を忘れます。これは、草の根プロジェクトのメンバーでいられたからこそ体験できた貴重なことだと思います。

また、毎週行うミーティングも大切な時間でした。他のメンバーと一緒にふるさと紹介のクイズを考え、お互いのことについて話し合うときが大好きでした。そのとき、今までに自分が知らなかった世界、知らなかった文化、想像したことなかつたたくさんの「日常」と出会います。頭のなかでは、世界へと冒険に出たよう



2015年10月11日にさがみはら国際交流フェスティバルのため本学第二国際寮で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年6月14日に町田市立木曽境川小学校で実施した国際学生訪問ワークショッププログラムにて（中央）

に感じていました。そのあと周りを見て、大学の中にあるひとつの教室にいたのだと思い出すときがたくさんありました。草の根プロジェクトは、大学の中にいながら世界中を旅したような気分が味わえる場所だと、今ははっきりとすることが出来ます。

そして、草の根プロジェクトは、私にとって大学の中で数少ない安らげる場所のひとつでした。私は入学した頃から、母国の家族、高校の先生方、先輩や後輩など、私を信じてくれているたくさんの人たちの期待に応えるため、また、モンゴルからの留学生であり奨学生として、授業やその他のいろいろな活動でよい結果を残すために、励んできました。もちろん、その全ては自分が本当にやってみたかったことだったため、とても忙しくても楽しく充実していました。しかし、時には限界を感じ、プレッシャーに圧倒される日々も少なからずありました。そんな日々のなかで、アドバイスをしてくださる先生方がいましたし、一緒にいて落ち着く親友、先輩や後輩がいました。草の根プロジェクトは、自分にとって落ち着く場所だったのです。そして、大きな存在でした。だからこそ、私は今までずっと頑張ってきた気がします。



2017年7月22日に本学第二国際寮で実施した異文化協働体験ワークショップ「世界の学校」にて



2018年12月5日に町田市立武蔵岡中学校で実施した国際学生訪問ワークショッププログラムにて（ここでは自力でほとんどの準備と実施を行った）

最後に、悩んで不安を感じているときに、いつも暖かく迎えてくださる岩本先生、厳しい言葉に聞こえて実は優しく応援してくださる清水先生に、本当に感謝しています。草の根国際理解教育支援プロジェクトのメンバーでいられたことは、私の誇りです。今まで本当にありがとうございました。

留学生のみなさんへ

入学して、授業や授業以外の活動やプロジェクトなどのチラシやポスターを見たとき、鼓動が強く速くなり、緊張しているようなワクワクしているような気持ちになることが、私にはありました。そんな自分を感じたとき、「これは私の本当にやりたいことだ」と私は考えました。そして、そこに一步を踏み出し、今まで走ってきました。これから桜美林大学で学ぶ全ての先輩たちにも、ぜひ自分の心に耳を傾けて、走り出してほしいと思います。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



かなざわ ほのか
金澤 穂香

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2015年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 31回

入学当時、私はいろいろなことを知りたいと思っていました。自分が思いつかない考え方や人間の感情に関心があった私は、1年生の秋、草の根プロジェクトでの活動に興味を持ちました。当初の参加目的は、活動を通して、さまざまな人の気持ちを考える機会を自分に与えることでした。

草の根プロジェクトに入って最初に気づいたことは、自分の無意識のイメージです。ある留学生の「日本の友人に言われた母国のイメージに傷ついた」という話を聞きました。実は、私も同じイメージを持っていました。それは、私の中ではプラスのものでした。その友人も褒めるつもりで言ったのかもしれませんが、私も含め、多くの日本人は褒め言葉と捉えているのではないかと思います。それは日本人の文化的背景があるからでしょう。全ての人間の感覚が共通ではないと分かっている、自分がプラスに思うことが時にマイナスなものであるということに、私は驚きを隠せませんでした。

人の持つイメージとは自分の基準であり、自分の中で完結しているものです。それからの私は、自分の友人に対しても何かを話す前には、そのことについて調べたり、分かっている相手にも相手に確認したり、以前よりも相手を思いやるようになりました。気づかないうちに相手に失礼なことをしてしまうと知ったからこそ、相手をよく知る努力がとても大切だと学びました。

自分のイメージを固める前に相手をもっともっと理解しようという気持ちが、私の世界を広げました。在学中、世界の地理をあらためて学んだり、世界遺産検定を取得したり、いろいろな言語を独学で学んだり、海外の人のSNSを見たり他言語で会話ができるような環境に自分を置いてみたりしました。これらの全ては、自ら知ろうとする姿勢を育てようという気持ちによるものです。このような行動の原動力は、留学生メンバーの日本語習得を頑張る姿や他のメンバーの困難なことにも一生懸命取り組む姿によって「何でも勇気を出してやってみよう」



2016年7月18日に「体験する文化祭」(相模原市中央区)で実施した世界の实物体験ワークショッププログラムにて



2017年10月1日にさがみはら国際交流フェスティバルのため本学第二国際寮で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年3月14日に田名公民館子どもまつりに行った世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年10月20日に「武蔵野市土曜学校世界を知る会ジュニア」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて

という気持ちが強くなったことにあります。

また、交流とは何かということも学びました。相手を知るには交流が必要であることはもちろんですが、自分を知るにも他者との交流が必要だと思います。草の根プロジェクトでのたくさんの活動を通して、私は自分自身を見つめることが多くありました。

以前は、人前で話すことは自分には向いていないと思っていました。しかし、それは向いていないと思っていただけだったと気づきました。草の根プロジェクトではアウトリーチ活動のたびに振り返りをします。振り返りを何度も繰り返すたびに、自分を見つめることが不思議と心地よく、毎回の振り返りが楽しみになりました。それは、自信がついたというよりも、メンバーと一緒に振り返りにきつと背中を押されたからだと思います。

メンバーから「前回よりもよくなった」「ここがいい」と言われるたび、自分を客観的に評価するだけでなく、自分をきちんと見て評価し

てくれるメンバーや先生を尊敬しました。全員で振り返りを行う草の根プロジェクトのメンバーだからこそ、アドバイスを心から受け入れることができ、自分もしっかりと返したいと思いました。先生か学生か、学年の違い、留学生か日本人かなど関係なく、誰のどの部分にも尊敬することができました。私にとってかけがえない気持ちをくれた人たちです。

草の根プロジェクトで活動した約3年で、当初の目的以上のものを手に入れることができました。日々の活動を振り返る積み重ねが、自分の中に大きなものを作ったような気がします。草の根プロジェクトで活動しなければ、これほど他者を尊敬できなかったかもしれません。ありきたりな言葉ですが、わたしは本当に成長しました。交流によって相手を知り、尊敬することは、これからの人生に一番活かしたいことです。草の根プロジェクトは、私にとって、一番感謝を伝えたい、とても愛しい場所でした。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



日本

とたに みもり
戸谷 美森

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2015年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 24回

私が草の根プロジェクトに出会ったのは、1年生の秋学期でした。博物館学芸員課程で共に学んでいた友人に誘われ、プロジェクトを訪れました。部屋に入るとすぐ、世界各地の楽器、遊び道具、衣装、生活道具など、さまざまな実物資料がずらりと並んでおり、圧倒されました。

実は、私は、もともと国際的なことに対する興味はそれほどありませんでした。あるとき、子どもたちがブラジルのけん玉を体験し、それをまねた工作をするワークショップに参加しました。そのとき、そのけん玉自体に対する興味とともに、そのようなワークショップを行う草の根プロジェクトへの興味が生まれました。

数回の現場体験と研修を経て、正式に活動へ携わるようになりました。最初の活動は、ある公民館で開催した世界の遊びと衣装の出張博物館でした。多くの親子が訪れ、世界の遊び道具を体験したり、帽子をかぶったり、工作をしたりしました。工作の際、私は小学生や幼児に対し、わかりやすい言葉を使おうと心がけました。自分で作ったものを嬉しそうに持ち帰る子ども

たちを見て、とてもやりがいのある活動だと感じました。

一番大変だったのは、あるワークショップで「マンカラ」というボードゲームの遊び方を説明したことです。メンバーと共に準備しました。しかし、週に一度のミーティングだけではワークショップ本番に間に合いません。そこで、空き時間にメンバーと集まり、詳細な説明内容や話す順番、具体的な手順などを夜まで考えました。たくさんのルールをわかりやすく簡潔に伝えることを第一に考えました。説明を間違えたり、日本語が母語でないメンバーが言葉に詰まったりしました。そんなときは、お互いに声をかけ合い、補い合いながら、何度も練習しました。ワークショップ当日になりました。午前中の回では説明が足りませんでした。昼休みに振り返り、午後の回では納得のいく説明ができました。一番苦労した思い出ですが、一番心に残っています。

草の根プロジェクトでは、ワークショップを終えると、毎回ビデオを見ながら振り返りをし



2016年10月6日にユニコムプラザさがみはらで実施した世界の実物体験ワークショッププログラムにて



2017年5月3日にパルテノン多摩キッズファクトリーで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年1月21日にソレイユさがみで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2019年1月20日にソレイユさがみで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて

ます。自分ではできたと思っていたことが、映像で確認するとうまく表現できていないことがありました。普段、自分の行動を客観的に見る機会はなかなかありません。しかし、ここで、よいところやそうでないところを見直すことができました。そうして、現場での活動を重ねていく中で改善することができました。人前で話すことや表現する場が与えられたことは、何度も自分を見つめ直すきっかけになりました。

私は草の根プロジェクトの活動から多くのことを学びました。例えば、日本以外の国・地域に対する考え方が変わり、今まで以上に興味を持てるようになりました。世界遺産検定を受けたり、各国の名前を改めて覚えたりしました。「なんとなくわかる」ではなく、確かな知識として身につけようという気持ちで、世界を見つめ、認識を持つようになりました。ほかにも、もともと日本が発祥だと思っていたこまやけん玉は、いろいろな国でそれぞれ特徴を持ったものが作られていたことを知りました。国が違って、同じようなものが世界にはたくさんある

ことに驚き、感動しました。

また、日本語を母語としない留学生や複雑な日本語は理解できない幼い子どもたちと接し、自分の当たり前が当たり前ではないということを改めて実感しました。何か伝わらないことがあったとき、私が使っていたのは本当のやさしい日本語ではないと気がきました。やさしい日本語の重要さと人に伝えることの難しさを学ぶことができました。今後も相手の立場や状況を考慮し、言葉を選んで伝える努力をしていきたいです。

私は、草の根プロジェクトに入って視野が広がるとともに、多くの学びを得ることができました。ここで学んだことを忘れずに、社会に出てからも頑張りたいです。約3年間、厳しくも愛情を持ってご指導して下さった先生方、一緒に頑張ってきたメンバーのみんな、ありがとうございました。草の根プロジェクトで活動できて幸せでした。

—私の経験と学び—

2018 年度に卒業・帰国した学生スタッフより



中国

ゴ ブンエイ
呉 文睿

2019年3月ビジネスマネジメント学群卒業

活動期間 2016 年度春学期～ 2018 年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 21 回

私は 2015 年 9 月左右加入の草根国際理解教育支援団体に、在这不知不觉度过了 3 年的时光、可以说在大学生生活、草根的活动让我收获了最多、而且影响了我的一生。

我第一次参加草根组织的活动是 2016 年、在我朋友的介绍下、我参加了神奈川県相原高中的 3 年级学生交流的活动、活动内容是和日本高中生们介绍自己的人生经历、让他们能更加清楚整理出自己高中毕业后的计划、通过在整理自己人生经历的同时、我对自己人生有了更清楚的认识、也大致决定了自己未来的打算。高中生们在听到你的人生经历后会问一些他们想知道的问题来作为他们自己将来的参照。帮助了别人的同时自己也明确了目标、所以我加入了、草根国際理解支援団体に。在这里我真的学习到了很多、希望未来有更多人学生可以加入到这里来。

私は 2016 年 9 月から 2019 年 3 月までの 4 年間、ビジネスマネジメント学群で学びました。日本語をもっと話したい、日本や外国の文化をもっと知りたいという気持ちで、草の根

際理解教育支援プロジェクトに参加しました。

2016 年の春（1 年生の後半）、草の根プロジェクトで活動していた友だちから誘われたのがきっかけです。そして、私は、ある日本の高校の 3 年生を対象に行った国際学生訪問ワークショップに参加しました。この活動では、留学生の私たちのライフヒストリーを紹介したり、事前準備で自分のライフストーリーを整理したり、日本の高校生たちの質問に答えることで、自分はどのような人なのか、さらに将来の夢まで見えてきました。日本の高校生の中には将来やりたいことが決まっている子もいれば、やりたいことがなかなか決められない子もいるということが分かりました。そんな彼らはみんな興味を持って私の話を聞いてくれたし、質問もたくさんしてくれました。私にとって日本語の実践練習になりました。そして、「自分のためになるし、他人の役にも立つし、この活動は一石二鳥だ」と、私は思いました。こうして私は草の根プロジェクトのメンバーになりました。

草の根プロジェクトの活動に参加することで、自由な時間や休みが奪われてしまう側面も



2017 年 7 月 8 日に青梅市国際理解講座で国際学生訪問ワークショッププログラムにて



2017 年 11 月 25 日に「武蔵野市土曜学校世界を知る会ジュニア」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて

あるけれど、それ以上に、普通の留学生生活・大学生活では体験できないことができる大きなチャンスを手に入れることができます。例えば、2017 年 7 月、青梅市に住む小学生や中高生たちに母国の学校文化や食文化、習慣について紹介しました。私はほかの留学生メンバーと楽しいクイズを考えて、子どもたちに出題しました。日本は、これから外国人住民や外国人旅行者がもっと増えていきます。外国の文化を知り、理解すべき時代が来ます。私たちの活動は、未来を支える子どもたちに外国へ対する興味を持たせると同時に、彼らの視野を広げるきっかけになれたと思います。

一方で、自分自身にも変化がありました。私は、以前は子どもが苦手でした。子どもと遊ぶことがあまり上手ではない私でしたが、草の根プロジェクトで子どもたちと活動していくうちに、いつの間にか子どもたちと楽しく交流できるようになりました。

草の根プロジェクトで学ぶ場は、地域でのアウトリーチ活動だけではありません。毎週のミーティングの時間もとても勉強になります。



2017 年 10 月 1 日にさがみはら国際交流フェスティバルのため本学第二国際寮で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018 年 6 月 27 日に多摩市立大松台小学校で実施した国際学生訪問ワークショッププログラムにて

ほかの留学生たちといろいろなことを考え、みんなで話し合うことで、お互いの国の文化や習慣を知ることができます。例えば、ベトナムの学校では、チャイム（ベル）は太鼓だそうです。モンゴルでは、他人の足を踏んでしまったとき、握手することで謝るそうです。ミーティングはとても面白い時間です。

さらに、自文化を思い出し、ほかの国の文化との違いを再発見することもあります。日本に来るまでは中国の伝統文化など当たり前のように、私はそれほど自文化を大事にしていませんでした。しかし、草の根プロジェクトでの活動を通じ、いろいろな人たちに自文化を紹介できるように、自文化を調べ、学び、たくさん事前準備をしました。私は母国や母国の文化について、理解を深めることができました。

草の根国際理解教育支援プロジェクトで活動した時間は、私の大学生活で最も人生に影響する時間だと思います。ここで得た知恵と経験は、これからの人生に役立つはずで、私は必ず人生に活かしたいと思っています。

ー私の経験と学びー

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



おさだ もえか
長田 萌香

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2016年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 12回

私は「桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクト」に参加したことで、多くのことを学びました。そして、この活動のおかげで自分が成長できたとも感じています。

この活動に参加した理由は、子どもが好きで学習支援者という立場に興味があったこと、博物館学芸員課程を履修していたこと、今後の自分に役立てたいという思いがあったことなどです。先生から声をかけていただき、友人と共にまず体験メンバーとして活動に参加したことを覚えています。

こうした経緯があり、実際に草の根プロジェクトの出張博物館でスタッフとして活動しました。そこで感じたのは、楽しいという気持ちと自分がまだまだ未熟であるということでした。「子どもが好きという気持ちだけでは、学習支援者としては十分ではない。人に何かを伝えるためには知識と行動力が必要である」と実感しました。

初めのうちは、私は失敗を気にしすぎていました。アウトリーチ活動を終えるたびに行う振

り返りでは、毎回みんなで活動のビデオを見ました。自分の姿をビデオで見ることは、恥ずかしさもあり、とても苦手な思いを持っていました。しかし、何度も繰り返して振り返りをしていくと、恥ずかしさよりも得られるものが多いことに気がつきました。自分の話している姿も、どこがよかったか、反対にどういった点がよくなかったかという気づきが生まれました。ビデオによって改善点が明確化され、次の活動に活かすことができました。

さらに、全体で活動の振り返ることで、他のメンバーからの客観的な意見も得られることができ、冷静に自分や活動全体を見直し、さらなる成長へとつながっていったと思います。共に活動する学生メンバーのおかげで、学べることも助けられることもたくさんありました。その存在は、「もっと頑張ろう」というモチベーションでもあり、「みんなのよい点は吸収していこう」という参考でもありました。

また、先生方にしっかりと指導し、見守っていただいたことで、私たちも常に学習支援者と



2017年10月15日にユニコムプラザさがみはらで実施した世界の実物体験ワークショッププログラムにて



2018年1月21日にソレイユさがみで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2017年5月3日にパルテノン多摩キッズファクトリーで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年7月9日に相模原市立鶴の台小学校で実施した世界の実物体験ワークショッププログラムにて

しての立場を忘れてはいけないという気持ちになりました。学生同士が集まると、気が緩むこともありました。しかし、そうした点を先生方に指摘していただき、学習支援者、そして一人の大人としての責任を実感しました。責任ある行動を心がけるべき場面はたくさんあるのだと自覚し、改めて気を引き締めました。

一方で、先生方がしてくださっていた、アウトリーチ活動当日の内容の計画、必要な資料や荷物の準備、たくさんの細かい計画や準備などのおかげで、私たちは草の根プロジェクトの活動に参加することができました。このことに大きな感謝の気持ちを伝えたいです。

4年間の大学生活の中で、私が頑張ったといえる充実した時間は「桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクト」です。卒業にあたり、改めて大学生活を振り返ってみても、草の根プロジェクトの活動に参加してよかったと思います。参加前は、自分に自信がない部分もありましたが、繰り返しの練習や復習によって改善点や良い点が見えてきました。多くのことを学ぶ

ことができ、自分の中で大きな自信になりました。しかし、こうした成長は自分ひとりの成果ではないと改めて思います。共に活動した留学生・日本人の学生メンバーや指導・支援していただいた先生方。私たちの実施したアウトリーチ教育プログラムに参加してくださった地域の方々。こうした多くの方々のおかげで、自分の視野が広がり、大きく成長できました。ここで得た経験は、これから先、社会人として働いていく場面でも、自信を持って活かしていけると感じています。

学生生活の中でのとてもよい経験、そしてよい思い出でした。ぜひ、今後の学生メンバーのみなさんもお互いに協働し、頑張っていってほしいです。そして、多くの経験を得て、充実した学生生活を送ってください。

繰り返しになりますが、活動に関わっていただいた多くの方々に、この場を借りて改めて感謝を伝えたいです。今まで本当にありがとうございました。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



おざわ ちほ
小澤 知歩

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2016年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 23回

私は2015年にリベラルアーツ学群に入学し、2017年の秋から草の根国際理解教育支援プロジェクトに参加することを決めました。実際に活動に携わったのは、大学生活の半分未満という短い期間ですが、草の根プロジェクトでの経験は、今の私を形成する大きな要素となっています。

草の根プロジェクトへ入るきっかけは、「面白そう」という単純な思いです。当時、私は草の根プロジェクトのエデュケーターである清水先生の講義を受けており、プロジェクトの学生が実際に地域の現場で活動している様子を見学する機会がありました。同じ大学生でありながら、その場で生まれた地域の方々の疑問に寄り添いながら、それに応えていく学生スタッフを見て、私の気持ちは「面白そう」から「やってみみたい」に変わりました。

そうして、草の根プロジェクトでの活動が始まりました。活動に参加するようになって、先生方や同じ学生スタッフ、草の根プロジェクト全体の考え方に何度も触れる機会がありまし

た。私が草の根プロジェクトで得たものを全て言葉にして表現することはできないので、その中からふたつを選び、ここに記します。

まず一つ目は、人と人が協力して生きる方法についてのヒントを得たということです。私の知っている「国際理解」とは、国の名前や特産品・土地の広さなど、各国の情報を知ることでした。世界の広さを知ることが目的だと思っていたのです。しかし、私が草の根プロジェクトで学んだ国際理解教育は、人間同士が互いの文化を尊重し、「そんな考え方やルールのある地域もあるんだ！」と一度受け止めて協力して生きていく。そんな、一人一人を大切に思う心のうえに成り立つものでした。

活動を始めてしばらくは、過去の自分を振り返り、反省したり、後悔したりしながら過ごしました。しかし、活動を進めていくうちに、「今からでも自分は変わることができる」と思えるようになり、次のことを考え始めました。それが二つ目の財産です。

「誰かのために、自分にできることを模索す



2018年2月3日に横浜市立並木第一小学校で実施した世界の実物体験ワークショッププログラムにて



2018年5月3日にパルテノン多摩キッズファクトリーで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2018年7月3日に本学第二国際寮で実施した異文化協働体験ワークショップ「世界の学校」にて



2018年12月16日に大和市国際化協会で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて

る」という経験です。誰かの気持ちに答えようと、その場にあるあらゆるものを活かし、他者と力を合わせて取り組むことです。これは、常に先生方や学生スタッフのみんながお手本でした。特に意識したことは、「学習者にとって、不要なものは取り除き、大切なものや必要なもの、いい影響を与えるものを用意する」という点です。当たり前のことかもしれませんが、この対応には、確立されたマニュアルや正解がありません。例えば、活動中の子どもたちの目につくことで、その学習を邪魔してしまうようなものがあります。その場の雰囲気や関係性といった目に見えないものにまでも気を配り、工夫することが必要な場合もあります。

また、この準備をするうえで難しいのは、「これは取り除こう！」と思うものがメンバーによりそれぞれ異なるということです。しかし、全ての意見を組み込むことはできません。ここでもやはり話し合いが必要です。私たちは「誰のために」「何のために」「どのように」というキーワードを軸に、ワークショップに臨みました。

毎回、地域での活動をした後には反省点が出てきます。しかし、誰の対応が正しかったか、正しくなかったかということはありません。毎回「今度こそ！」という気持ちを持ち、みんなとの振り返りを活かし、活動しました。実際に活動を行なった現場の子どもたちや地域の方々からいただく反応が、私の背中を押し続けてくれたのです。

私は、草の根プロジェクトで学んだスキルとたくさんの思い出や感情を持ち、支援を必要とする人々に何ができるのか、これからも考え続けていきます。まずは、仕事を通して、身近な人から、そのようなことができればと思います。場所や相手が変わっても、草の根プロジェクトでの学びは、私の中にしっかりと根ざしています。

最後に、清水先生、岩本先生、一緒に活動した学生スタッフのみなさん、活動を支えてくださった皆様に感謝を申し上げます。とても楽しい学びの時間をありがとうございました。

ー私の経験と学びー

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



ごとう ゆい
後藤 優衣

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2016年度秋学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 14回

草の根プロジェクトのメンバーとして約2年が経ちました。とても充実した活動の中で先生方や仲間にも恵まれ、自分自身の成長を実感することができました。今、私が思うことは、多様な人の学びのお手伝いできたことがとても嬉しいということ、そして、世界の文化についてもっと知りたい、共有していきたいということです。

私は一年次に留学し、さまざまな国籍の人と出会い、文化の違いを経験しました。帰国後も文化の違いを学び、留学生とも仲良くしたいと思っていました。これが草の根プロジェクトに入ろうと考えた理由です。また、博物館学芸員課程の実習に向けて、自分がどのように他者へ接したらよいか、どのような話し方をしたらよいか勉強したいと思ったこともあります。

初めての活動は右も左もわかりませんでした。私は人前に出ることが苦手だったので、「しっかりできるか」とネガティブに思うこともありました。特に、初めの頃は、自分に与えられた役割をこなすことだけが頭の中をぐるぐ

る駆け巡っていました。

事前に学習した「やさしい日本語」ができなかったこと、活動のテーマを忘れてしまうこともありました。しかし、現場での活動を重ねるうちに、活動するメンバーが何をしていた、自分は今、何をすべきなのか、目的は何かなど、だんだん考えられるようになりました。活動中の視野が広がりました。

出張博物館、実物体験や異文化協働体験などのワークショップは、草の根プロジェクトにある実物資料を子どもたちと一緒に楽しむことができるプログラムです。子どもと留学生との距離も縮む活動です。お互いに初めて会うのに、他者が話しているときの子どもたちは「集中」そのもので、自分から留学生や周りの子どもたちにコミュニケーションをとる姿も見られました。子どもたちが興味をもって活動に参加してくれること、草の根プロジェクトが伝える「聴く」と「協働」を頑張ってくれることを嬉しく感じました。私たちも留学生メンバーの話聞き、「なるほど」と思うことが多くあります。



2017年5月3日にバルテノン多摩キッズファクトリーで実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2017年10月1日にさがみはら国際交流フェスティバルのため本学第二国際寮で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2017年10月15日にユニコムプラザさがみはらで実施した世界の実物体験ワークショッププログラムにて



2018年2月16日に町田市立山崎小学校で実施したワークショッププログラムにて

その場にいるみんなが「異文化から学ぶ」ことを実践していると感じました。

アウトリーチ活動終了後の振り返りは、苦手なことでした。自分のできないことを恥ずかしく思うこともありました。しかし、客観的に自分を見ることで、悪い部分ばかりでなく、よい部分やできている部分も見つけることができるようになりました。

振り返りは自分ひとりで行うだけでなく、メンバーと共に行いました。お互いのよい点を参考にして次に活かそうとする、よいことだけでなく問題点や課題も伝えあう、アドバイスしあう。そのような関係ができたと思います。先輩・後輩など関係なく、草の根プロジェクトという同じフィールドにいる学習支援者として意見を言い合える仲間と、とても素晴らしい環境に自分はいるのだと感じました。

また、参加者からいただいたことばも思い出します。アンケートの集計を行っている、「また遊びたい」「また来てね」というコメントが数多く寄せられていました。留学生メンバーに

向けられたコメントには、私たちが見ても嬉しくなる言葉が並んでいました。心が温かくなり、この気持ちを共有したいと思いました。そして、次も頑張ろうという活力になりました。

草の根プロジェクトに入って、たくさんの人と出会い、異文化を学ぶことができました。「博物館実習に向けて」という思いは、いつの間にかすっかり消えていました。他者との接し方や話し方を学び、自分を客観的に見ることができるようになりました。また、世界のさまざまな文化に触れ、興味が増しました。今後、出会う人たちとお互いの文化について積極的に話ができれば、人とのつながりや視野は一気に広がると思います。

私は、これから新たな「異文化」に身を置くこととなります。草の根プロジェクトで学び、身につけた「異文化間能力」を活かしていきたいと思っています。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



パク イェウン
朴 藝恩

2019年3月リベラルアーツ学群卒業

活動期間 2017年度春学期～2018年度秋学期

アウトリーチ教育プログラムの参加回数 12回

안녕하세요, 저는 2019년 3월에 졸업하는 한국인 유학생 박예은입니다. 오비린에 있는 한국인 정규학생 및 교환학생 여러분들, 일본문화교류는 물론 다른 나라와의 문화교류와 여러 나라의 친구를 만들고 싶은 분들, 그리고 학교문화도 경험해보고 아이들을 좋아하는 분들에게 꼭 쿠사노네를 추천해드리고 싶습니다. 쿠사노네 단체는 오비린대학 쿠사노네 국제이해 교육 프로젝트 단체입니다. 가장 많은 활동은 초등학교나 다른 회관 장소를 빌려서 외국유학생들이 자국의 문화를 소개하는 것이라고 봅니다. 유익한 유학생 생활을 보내고 싶은 분들에게 꼭 쿠사노네 단체의 활동에 참가해보라고 말씀드리고 싶습니다. 감사합니다.

私が初めて桜美林大学に来たのは2015年3月末、交換留学生でした。その1年間が人生のターニングポイントとなり、帰国して卒業したら編入しようと思った。その後、2017年4月に再び桜美林大学へ戻ってきました。

交換留学のときはだいぶ違い、単位を取るだけで精一杯だったのですが、私は授業以外に何か活動したいと思っていました。そんなとき、偶然、交換留学当時に友人になった呉さんと再会しました。そのとき初めて草の根プロジェクトについて知りまし

た。彼の体験談がきっかけで、草の根プロジェクトの活動に興味をわきました。

実は、以前、ある中学校へ行く機会がありました。留学生が子どもたちに自文化を紹介し、彼らが日本文化を教えるという活動でした。私なりに頑張ったのですが、彼らにはあいづちも質問もなく、ただじっと見ているだけでした。「意味のある交流だったのか」と私は疑問を持ちました。ですから、草の根プロジェクトでも同じような出来事が起きるのはと心配しました。しかし、それは大間違いでした。

私の初めての草の根プロジェクトの活動は、小学生を集めて行った異文化協働体験ワークショップでした。何も分からず、用意した内容をひたすら暗記することばかり考えていました。しかし、清水先生から「一方的に伝えるのではなく、子どもたちが楽しくわかるように、私とおしゃべりしながら進めよう」と言われました。私は、子どもが興味を持てるようなトピックを考え、それをクイズにしました。すると、子どもたちは元気いっぱい、すごくいいリアクションでした。私も、子どもたちとの交流はもちろん、自文化についても改めて学ぶことができました。そして、日本の学校文化にも触れることができ、さらに、他の留学生メンバーの文化も知ることができました。いわば、「一石三鳥」です。この



2017年10月1日にさがみはら国際交流フェスティバルのため本学第二国際寮で実施した世界の遊びと衣装の出張博物館にて



2017年11月25日に「武蔵野市土曜学校世界を知る会ジュニア」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて



2017年11月22日に相模原市立富士見小学校で実施した国際学生訪問ワークショッププログラムにて



2017年12月16日に相模原市立田名公民館の「おもてなしカレッジ」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて

初めての経験が一番記憶に残っている思い出です。

私たちはいつも地域の学校や公民館でワークショップをするたびに、1か月も前から毎週ミーティングを行い、メンバーみんなで練習します。最初は「なぜ、ここまでするのだろう」と思いましたが、その答えはいつの間にか理解できました。それは、どんなに練習しても計画どおりにはいかないからです。子どもの学びづくりはすぐにできないのです。

一番苦労したことであり、勉強になったことがあります。それは、ブラジルのけん玉「チクタク」をまねた工作のアクティビティです。私たち留学生がチクタクの作り方を子どもたちに言葉（日本語）だけで伝えるという活動でした。普段は使わないような単語や表現を学び、作り方を覚え、言葉だけで伝える練習を何度もしましたが、実際やってみると難しく、うまく伝えられませんでした。どうしても手を出して手伝いたくなるのですが、私たちは最善の言葉で伝える努力をしました。

これは、ただの伝言ゲームではなく、教育的な意味のあるアクティビティです。子どもができないからといって大人が手伝ってしまうと、子どもの創造的な思考力を阻害すると聞いたことがあります。子どもたちが一生懸命考えて自分でやってみるとい

ねらいがあります。

もうひとつは、草の根プロジェクトで先生方がいつも子どもたちに話している「協働」です。子どもたちは、私たち留学生の話す言葉に耳を傾け、一生懸命理解しようと協力します。子ども同士でも教え合ったり、助け合ったりします。


この「協働」は私の変化でもあります。私は、大人数でいるより少人数や一人であることを好む性格です。いろいろな活動でいろいろな人と出会い、ミーティングやワークショップなどの集団の活動を通じて、協働に対する苦手意識が徐々に消えていった気がします。一人で悩み、解決しようと抱え込むより、誰かとお互いに思いやり助け合うことが大切だと気づきました。

私は草の根プロジェクトでいろいろな人に出会い、さまざまな活動をすることができ、本当に幸せでした。草の根プロジェクトのおかげで、自分の視野が広がり、世界のいろいろなことを理解・尊重できるようになりました。私にとって貴重な経験でした。一緒に卒業するメンバーや後輩たち、みんなの将来を応援しています。先生方、今まで本当にありがとうございました。これからも草の根プロジェクトをよろしく願います。

ー私の経験と学びー

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



 ペロニオ ミランダ
アメリカ PELONIO Miranda
ILコネッサンスジャパンプログラム
活動期間 2017年度秋学期
アウトリーチ教育プログラムの参加回数 2回

2017年の秋学期、桜美林大学での留学を始めたとき、私は日本での生活をできるだけ生かしたいと考えていました。日本人の大学生ばかりでなく、子どもから高齢者までいろいろな日本人と話したり交流したりしたかったので、草の根プロジェクトで活動することは理想的に思えました。

最初の学期、私の日本語は下手でしたし、生活にもまだ慣れていませんでした。アメリカではいろいろなボランティア活動をしたことがありましたが、日本で活動することには少し不安がありました。けれども、草の根プロジェクトのおかげで、私の留学生活は本当によいものになったと思っています。

はじめ、私は草の根プロジェクトのことをよく理解していませんでした。だから、実は、ちょっと残念だと思ったこともありました。留学生メンバーと日本人学生メンバーのミーティングが別々で、あまり会う機会がなかったことです。正直なことを言うと、留学したばかりの当時、私が一番優先して考えていたことは、日

本人の友だちづくりでした。だから、プロジェクトに入ることを渋る気持ちもありました。日本人の友だちをつくるなら、何かほかのサークルのほうがいいかもしれないと思ったこともありました。

しかし、そんな期待とは違って、草の根プロジェクトに入って活動を続けて、心から本当によかったと思っています。いろいろな国・ことばの留学生メンバーとすごく親切な先生たちと一緒に活動しました。地域でのワークショップのために、私たちはミーティングをたくさんしました。そのなかで、教科書の日本語ではないコミュニケーションがいろいろできました。ワークショップのための練習だったのに、それは本当にいい勉強になったし、これからの私に役に立つことがたくさん学べました。草の根プロジェクトでの活動は特別で、本当に貴重な経験でした。

私にとって最初のアウトリーチ活動は、ある地域でのワークショップでした。そのとき、私は子どもたちにいろいろな国の遊び道具の使い



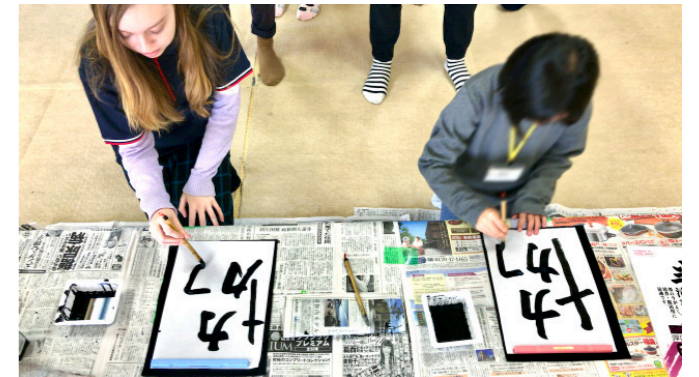
2017年11月18日に「武蔵野市土曜学校世界を知る会ジュニア」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて



2017年12月16日に相模原市立田名公民館の「おもてなしカレッジ」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて



同左 子どもたちにインドネシアの竹コマの回し方を伝える



同左 一人一画ずつ書き入れていく「リレー書道」

方を説明することができました。大学生と子どもの言葉やコミュニケーションは全然違います。さらに、英語がわかる大学生と、英語がわからない子どもたちは、もっと違います。日本の子どもたちとコミュニケーションができたので、私の自信は大きくなりました。そして、ワークショップに参加した子どものお母さんからの質問にも答えることができました。そんなことができた自分が信じられないくらいです。

そのワークショップの経験のおかげで、私は恐れることなく、日本語を使って活動することにますます挑戦するようになりました。子どもたちと過ごすことは非常に楽しく、自分の日本語は「大丈夫だ」という自信が得られました。その後も活動を続け、さらにほかにもいろいろなボランティア活動をやってみました。草の根プロジェクトの活動をはじめ、桜美林大学でのボランティア活動は、私の留学生活の一番大切な経験だったと思っています。

桜美林大学で学ぶ留学生のみなさんに草の根プロジェクトで活動することをおすすめしたい

です。草の根プロジェクトと一緒に活動する人たちは、留学生も日本人学生もみんなすごく優しいです。日本語の練習にもなります。草の根プロジェクトのアウトリーチ活動は非常に貴重なものです。日本語でたくさんコミュニケーションをしたい人、日本のコミュニティーへの参加を経験したい人、日本語が上手になりたい人、ぜひ活動してみてください。

—私の経験と学び—

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



チョウ シンヨウ
張 心蓉

ILコネッサンスジャパンプログラム
活動期間 2018年度春学期
アウトリーチ教育プログラムの参加回数 2回

2018年の三月、我在櫻花盛開の季節裡隻身一人來到櫻美林大學，雖說留學的時間短暫，但在這裡我遇到了一群很棒的夥伴。

與草根國際理解教育支援計畫相遇是在第三天的新生訓練會，手冊中草根教育計畫的宣傳單吸引了我的目光，在台灣就讀教育學系的我一直期許自己能在日本也接觸教育相關的活動，而如今這個機會就擺在眼前，令我心生嚮往。第一次出席草根教育計畫的會議時非常緊張，深怕自己日文程度不夠而帶來困擾，但是草根的老師和其他同學都非常歡迎新成員的加入，熱情的向我解釋計畫的活動和內容，更邀請我參加七月份的夏令營，滿滿的親切感令我頓時放鬆不少。

草根的夏令營給我許多珍貴且深刻的回憶，夏令營中的遊戲都是為了讓留學生能練習日文而設計的，留學生只能「說」而本地生「做」，為了能清楚順暢的進行遊戲說明只能咬緊牙關拚了命的練習，這段期間是在留學中最受挫，卻也是收穫最多的時候。然而不僅是在語言方面得到加強，透過不同教育環境的刺激下，自己身為教育者有了許多不同且創新的想法，教學現場的直接接觸也更提升自身能力，是非常難能可貴的經驗。

有了這次珍貴經歷，未來成為老師的路上必定能成為很好的助力，儘管曾經因日文程度不足受挫而不

甘心過，卻也和日本學生及夥伴一起歡笑、努力過，種種回憶都成為讓我向上成長的養分，至今依然覺得當初自己鼓起勇氣是個正確的決定，在這裡學到許多事，邂逅許多人，製造很多美好回憶，直到現在也很感謝草根的幫助和包容。喜歡挑戰自我的人，不妨來了解一下這個充滿溫暖的草根國際理解教育支援計畫，替自己的留學生活添上一筆不一樣的色彩。

2018年の4月から8月まで、私は留学生として桜美林大学で学びました。短い時間でしたが、私はこの学園で素敵な人たちに会いました。

草の根国際理解教育支援プロジェクトとの出会いは、3回目のオリエンテーションでした。会場でプロジェクトのチラシをもらいました。私は台湾の大学で教育を専攻しているので、日本にいる間に必ず教育に関わる活動に参加しようと決めていました。だから、そのチラシを見たとき、心がわくわくしました。

初めて草の根プロジェクトに行ったとき、とても緊張していました。私の日本語は下手なので、迷惑をかけるかもしれないと思っていました。でも、先生とほかの留学生のメンバーは私に優しく説明して



2018年7月3日に本学第二国際寮で実施した異文化協働体験ワークショップ「世界の学校」にて



同左 実施に携わったメンバーと



2018年7月3日に本学第二国際寮で実施した異文化協働体験ワークショップ「世界の学校」にて



同左 同じグループになった学生・子どもで互いの名前を覚えるゲーム

くれました。毎年、草の根プロジェクトが主催する「夏のスペシャルプログラム」というワークショップに参加することをすすめてくれました。そのことを本当に感謝しています。

そのプログラムは、私が草の根プロジェクトで参加することができた唯一の活動なので、深く印象に残っています。そのワークショップには面白いコミュニケーションゲームがありました。それは、子どもたちが知らない物について留学生が伝えるアクティビティです。ただし、ジェスチャーは使わず、日本語で話すことしかできません。だから、私は一生懸命に日本語で子どもに伝える説明を練習しました。当日までの一週間は、たぶん私が日本にいた間で一番必死に頑張った時期だったと思います。

でも、私が得たことは言語的な成果だけではありません。教育の方法についてもいいことを発見しました。それは、初めて聞いた「たし算」と「かけ算」というものです。実は、そのふたつは「聴く」と「協働」でした。それは、私たち学生にとっても、とてもすごく重要なことでした。私も先生になったら、子どもたちに「聴く」と「協働」の重要性を教えたいと、時々考えていました。しかし、効果的な方法が分かりませんでした。この「たし算」と「かけ算」とい

う考え方を知ったとき、私は「これはいいアイデアだ」と思いました。将来、きっと私も教育の現場で使えるはずですよ。

「夏のスペシャルプログラム」は一日で終わりました。私は子どもたちとお互いに緊張から始まり、徐々に慣れて心を開き合い、一緒に笑うことができるようになっていました。このワークショップの始めから終わりまでの全ての過程は、私にとって楽しくて貴重な経験でした。

草の根プロジェクトでの活動を通して得られた、自分の限られた日本語のせいでうまく伝えられない悔しさも、子どもたちと一緒に遊ぶ嬉しさも、メンバーからのたくさんの励ましも、すべてが私の経験です。こんなにも素敵な経験によって、私は成長しました。今でも草の根プロジェクトに参加したことは、いい体験だったと思っています。そこで私はたくさんのことを学んだし、いろいろな人と出会えたとし、思い出もいっぱいできました。

草の根プロジェクトで得た経験を活かし、大学卒業後はいい小学校教師になりたいと思います。本当にありがとうございました。

ー私の経験と学びー

2018年度に卒業・帰国した学生スタッフより



 ジェラルド ケーモン
アメリカ GERALD Kaymon

ILコネッサンスジャパンプログラム
活動期間 2018年度秋学期
アウトリーチ教育プログラムの参加回数 3回

After being accepted in the Reconnaissance Program for the Fall 2018 semester, J.F. Oberlin became my new home from August 2018 to January 2019. Ever since I was a child, I was always interested Japanese pop culture such as anime and manga. As I got older, my curiosity about Japan continued to grow, ultimately leading me to study more about the language and culture. With a minor in Asian Studies, I decided that studying abroad in Japan would further improve my Japanese language and understanding of the culture.

Coming to Japan being the only person from my school was very nerve-racking. Going to a new country with a completely different language, currency, and culture was very overwhelming. Looking back on my experience, I realized that the feeling of being outside my 'comfort zone' pushed me to get out and be active on my campus and in my community. During my orientation, I received information about Oberlin's Kusanone Project. Participating in different workshops teaching Japanese children about my culture seemed like a very rare and interesting opportunity. By joining this club, I could interact with locals in a fun way teaching them about my culture while also learning about theirs. With my limited Japanese skills, teaching kids about American culture in Japanese seemed like a very daunting task. Even still, I decided to attend their meetings and to my surprise, the members of Kusanone Project welcomed me

with open arms.

Joining this club allowed me to make great friends and meet people from all around the world. With many of the members also being foreign exchange students, we often had very interesting conversations about our cultural differences and our new lives in Japan. Joining this club also helped me grow as a person. Being surrounded by many different kinds of people allowed me to be very open minded to new ideas. From struggling with a simple introduction to explaining a step-by-step process of building a Brazilian toy, my Japanese has also improved by leaps and bounds. Although my time in Japan was very short, I have learned so much from being involved with the Kusanone Project. None of this would have been possible without the support of my family, friends, and teachers. Thank-you all so much for your support.

2018年秋学期、私は交換留学生として桜美林大学で学びました。子どもの頃からずっと日本の文化に興味があって、日本語を勉強することが大好きでした。だから、日本のことをもっと詳しく知り、日本語を上達させるために、留学しました。

私は、自分の大学からたった一人で桜美林大学に来ました。知り合いもおらず、不安しかありませんでした。しかし、オリエンテーションのとき、いろいろな資料をもらい、その中で草の根プロジェクトのことを知りました。日本の子どもたちに私の文化を紹介しながら、日本語と日本の文化を学ぶことは、



2018年10月20日に「武蔵野市土曜学校世界を知る会ジュニア」として実施した異文化協働体験ワークショッププログラムにて

とても面白そうだと思います。目標も達成できるし、一番得るものがあると思ったので、草の根プロジェクトを訪ねてみることにしました。

まだ日本語がうまく話せなかった私は、とても緊張していました。しかし、私の印象に残っていることは、先生方と他の留学生が優しく挨拶してくれたことです。先生が草の根プロジェクトについて詳しく話してくださるのを聞いて、私はもっと興味を持ちました。

草の根プロジェクトには、世界中のいろいろな物がたくさんあります。初めてのミーティングのとき、こまやけん玉などいろいろな遊び道具を体験しました。日本にある遊び道具は世界の国々にもあります。少し違う形をしていますが、他の国にも同じような遊び道具があるのです。そのことだけでも、とても不思議だと思いました。そして、私の文化について子どもたちに教えることはいい経験になるはずだと思ったので、草の根プロジェクトのメンバーになろうと決めました。

地域でのアウトリーチ活動のために、私たちメンバーは毎週一回集まります。ミーティングでみんなとワークショップの計画や準備をします。そのミーティングの最もよいことは、いろんな国の人たちと話ができることです。友だちが作れることはすごくいいことです。そして、みんなの話の中で、私にはたくさん気づいたことがありました。私は、アメリカ人にとっての「当たり前」を考えたことがありませんでした。しかし、日本の生活に慣れ、メンバーと交流しながら、アメリカ独自の文化やほかの国との違いにだんだん気づくようになりました。お互いの国の言葉、習慣、ジェスチャー、迷信などを学び、とても楽しかったです。

ついに、初めてのワークショップの日が来ました。日本人の子どもと一度も話したことがなかったので、私はとてもワクワクしていました。子どもたちの話す言葉を理解できるか、逆に、私の言うことを子どもたちが理解できるか、ずっと気にしていました。子どもたちは興奮して早口で話したり、何人かが同時に話したりして、私には何を言っているのかわからないときもありました。しかし、子どもたち



2018年11月24日に青梅市国際理解講座で実施した国際学生訪問ワークショッププログラムにて

みんなと努力して、グループ活動がうまくいきました。グループの子どもたちは、日本語が母語ではない私たち留学生のことをちゃんと聴かなければいけません。「耳」+「目」+「心」で「聴く」、そして、その一人一人の聴く「力」をかけると(×)「協働」になります。それは、人間のとても重要なスキルだと、私にとっても勉強になりました。

次のワークショップは、さらにうまくいったと思います。私にとって一番楽しかった活動です。中高生たちへのワークショップでした。その計画を初めて聞いたとき、すごく緊張しました。「触察伝言ゲーム」というアクティビティを知った時、さらに緊張しました。先生が選んだ実物資料を留学生と子どもたちに見えないように箱に入れます。グループリーダーの留学生は、その箱に手を入れて、その物がどんなものか触って調べます。そして、それがどんな形をしているか、大きさはどのぐらいか、どんな手触りだったか、子どもたちに言葉で表して伝えます。私の限られた日本語で、どのように言い表したらよいか、とても悩みました。しかし、清水先生が私の悩みを理解し、励ましてくださいました。うまく説明できるか不安でしたが、先生がいくつか擬音語や形容詞を教えてください、私は安心して活動に臨みました。新しく知った単語を覚えるために、私は毎日練習して当日を迎えました。本番では、グループの子どもたちが私の言い表したものをちゃんと見つけました。それは、最もいい思い出として心に残っています。

短い間でしたが、草の根プロジェクトで活動して、私はいろいろなことを学んだし、たくさんの留学生や日本人学生と出会いました。草の根プロジェクトで得たものは、やはり「自信」だと考えています。私はこれまで2年間日本語を勉強してきましたが、まだ分からないことがたくさんあります。それでも、先生方やメンバーのみんなと協力して頑張りました。草の根プロジェクトに参加して、とてもよかったと思っています。思い出がいっぱいです。先生方、メンバーのみんな、心からありがとうございました。「草の根プロジェクト、これからも頑張ってください！」とみんなに伝えたいです。

編集後記

ここに草の根プロジェクトの年報『草の根国際理解教育支援プロジェクトのあゆみ vol.7 2018年度』をお届けいたします。前半では、広報活動の展開とその反応、また、それに対する新たな取り組みとしてワークショップのパッケージメニュー化の方針について述べました。パッケージ化はこれまで蓄積してきたチエ・ワザの一部を具体的な形として示す作業といえるでしょう。既に完成している5つのメニューのほかにも、我々の引き出しにはこれまでワークショップで実施してきたいくつものアクティビティがあります。それらを組み合わせ、パッケージ化する作業は、非常に楽しくやりがいのあるものです。ワークショップの中身を「見える化」することで、地域からの依頼のハードルが低くなると思います。そして、より広く効率的にワークショップを実践することが可能となり、地域の教育に益々貢献できるものと期待しています。

また、本誌は、全体の1/3ほどを卒業・帰国する11名の学生によるエッセイが占めることとなりました。1997年度の発足後、間もなくして始まった本プロジェクトにおける活動を授業の課題としてリンクさせる取り組みは、2012年度で終了しました。したがって、授業を通して本プロジェクトに参加することで得られる「単位」という明確な見返りもなくなりました。それ以来どのくらいの学生が参加するのか、という不安をいつも抱えながら学期始めを迎えてきました。しかし、学内のさまざまな授業等と連携し、本プロジェクトに対する理解が広がり、協力を得ていくことで、これまで途切れることなくそれぞれに志を持った学生と出会い、助けを得ることができました。ここにエッセイを寄せてくれた個性豊かなメンバーも、一人ひとりが持っている力を活かして大いに活躍してくれました。心から感謝するとともに、本プロジェクトで得た経験がこれからの糧になることを切に願います。

このように本プロジェクトは、今後もヒト、モノ、チエ・ワザを最大限に活かした学びを提供することで、学内外の教育現場に貢献してまいります。

岩本 貴永

桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクトのあゆみ
Vol. 7 2018年度

発行日 2019年4月20日

編集・発行

桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクト

石塚 美枝

清水 貴恵・岩本 貴永

〒194-0294

東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学 其中館 301

kusanone@obirin.ac.jp

<http://www2.obirin.ac.jp/kusanone/>



桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクトのあゆみ
Vol. 7 2018年度

文章・写真・図表等の無断転載・複製を禁じます。